大和田建樹
奥好義 同選

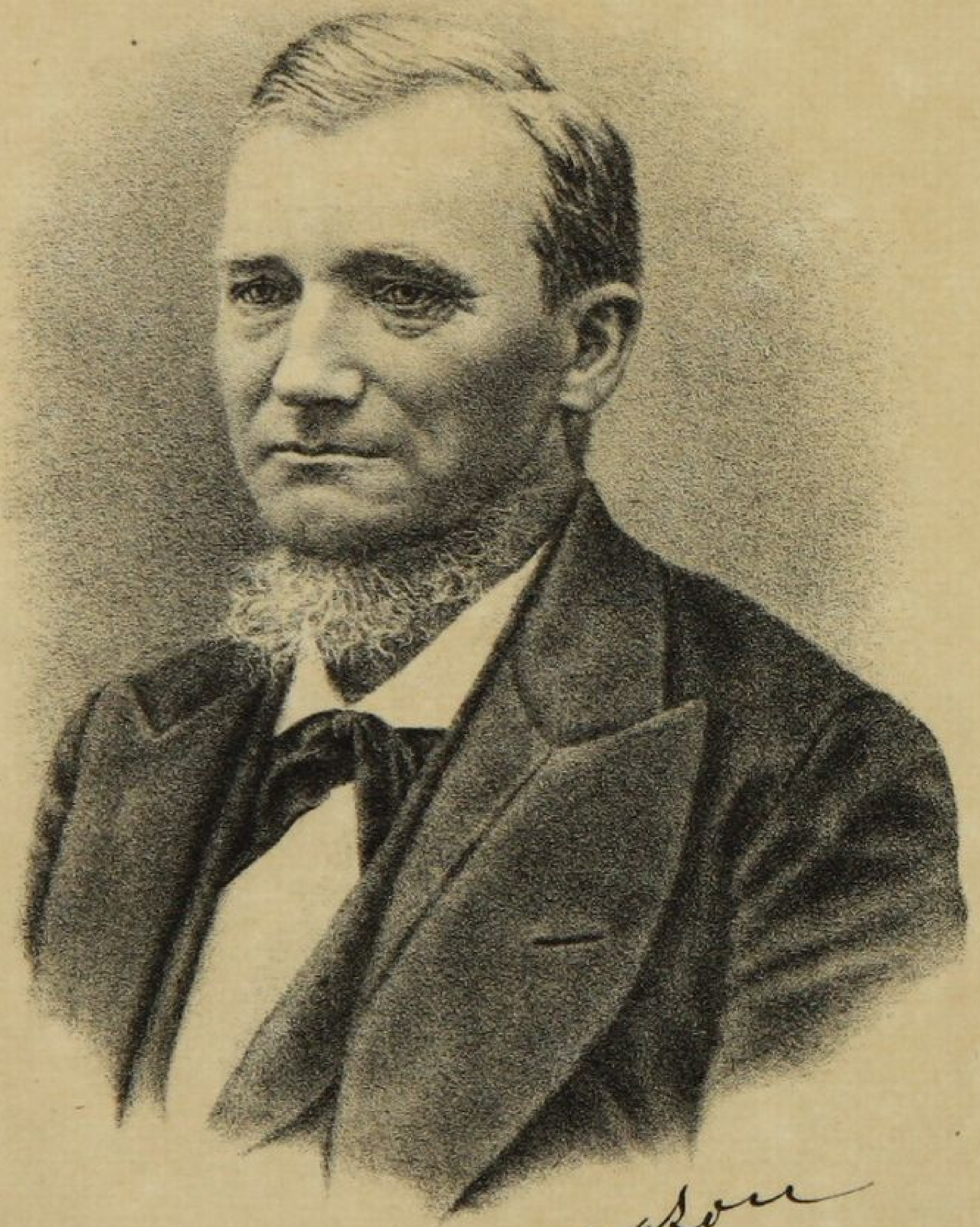
明治唱歌

第一集

東京 中央堂發兌

Mr. L. W. Mason

[illegible]



Mr. L. W. Mason

右ニ掲グルハ米國音樂博士ルーサル、ホワイチング、メーソン先生ノ肖影ナリ。先生ハ去ル明治十三年ヨリ明治十五年マデ我文部省ノ聘ニ應ジテ音樂取調掛、東京師範學校、東京女子師範學校、及ビ學習院ニ於テ教授ノ勞ヲ執リ實ニ我邦學校唱歌ノ基ヲ闢カレタリ。好義不肖ト雖ドモ嘗テ同僚上真行、辻則承二氏ト共ニ先生ニ就キテ業ヲ受ケ今尚ホ其教授法ヲ

繼ギ唱歌授業ニ從事スルハ全ク先生ノ賜ト謂フベシ。此度明治唱歌ノ選成ルニ當リ聊カ厚恩ヲ謝センガ爲メ其肖影ヲ寫シテ世ノ同學諸君ニ示ス。

明治廿一年三月　　奥好義

序に代ふる歌

あさがすみまだ夜をのこす　谷かげのさびしき空に　たれかまづ春をいざなふ。　うつくしき、たゞ鳥の歌。

雲ふかく里へだゝりて　友とほき旅路のくれに　憂き心たれなぐさむ。　いさましき、たゞ水の歌。

鳩車ひきつかれたる　をさな兒を夢におくりて　たれかそのねむりを守る。　愛ふかき、とゞ母の

歌。
人の世のはかなきねがひ　浮き沈み身をおほふ時　胸の火をたれかしづむる。　清淨の、たゞ神の歌。
おもへ人、耳にわかれて　うまれなん世はいかならん。　もろともに謡ひて謝せよ。　世にあまる、あゝ神の恩。

大和田建樹

凡例

此書は、學校と家庭とを問はず、世の唱歌を誘導して、高尚の域にすゝめんとのぞむ熱心より、不完全の譏をうけんもかへりみず、稿を起したるなり。されば第一集は、なるたけ簡單にて獨習にやすきものよりはじめ、二集三集と順序をおひて、高等のものにおよぼさんとす。
毎年春秋二期に、一集づゝ出板すべし。

巻頭に撰者の曲をおきたるは憚なきに似たれど、これは新年より事を始むるの意によるのみ、不敬の罪はゆるされよ。

巻中に、作歌者の名ありて作曲者の名なきものは、西洋大家の歌曲集より撰べるなり。

撰曲校正等のことにつきては、學友上真行、辻則承の二君、もつとも懇篤にその勞を取られたり。

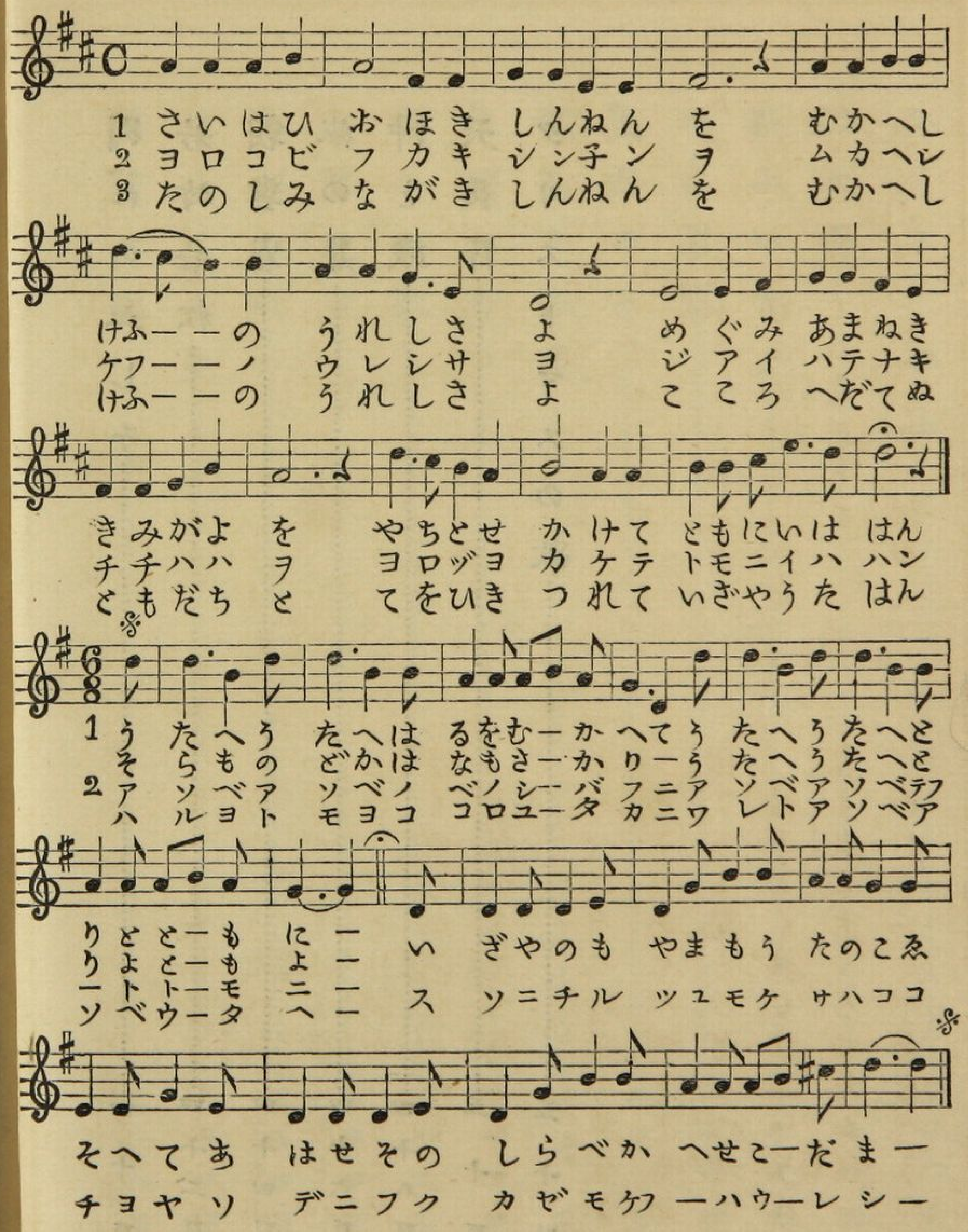
明治唱歌第一集

目録

新年……八頁
春の歌……八頁
鳥の歌……十頁
春風……十二頁
暮春……十四頁
遊歩の庭……十四頁
學の力……十六頁
勸學の歌……十八頁
共に學びし……十八頁
二月の海路……二十頁

ふるさとの山……二十二頁
紀元節……二十四頁
家ふいなん……二十四頁
日本男兒……二十六頁
皇國の守……二十八頁
母なき吾屋……三十頁
故鄉の空……三十二頁
別れの歌……三十二頁
千里の友……三十四頁
草刈の歌……三十四頁
けふよる友……三十六頁
讃美の歌……三十八頁

別れの血しお……四十頁
若竹若松……四十二頁
朝雲雀……四十四頁
旅の暮……四十六頁
沖と磯……四十八頁
天長節……五十頁
クリスマスの歌……五十頁



新年

大和田建樹 作歌
奥好義 作曲

(一)さいはひおほきしんねんを
むかへしけふのうれしさよ。
めぐみあまねき君がよを
八千歳かけて共にいそゝん。

(二)よろこびふかきしんねんを
むかへしけふのうれしさよ。
慈愛はてなきちゝはゝを
万代かけてともにいはゝん。

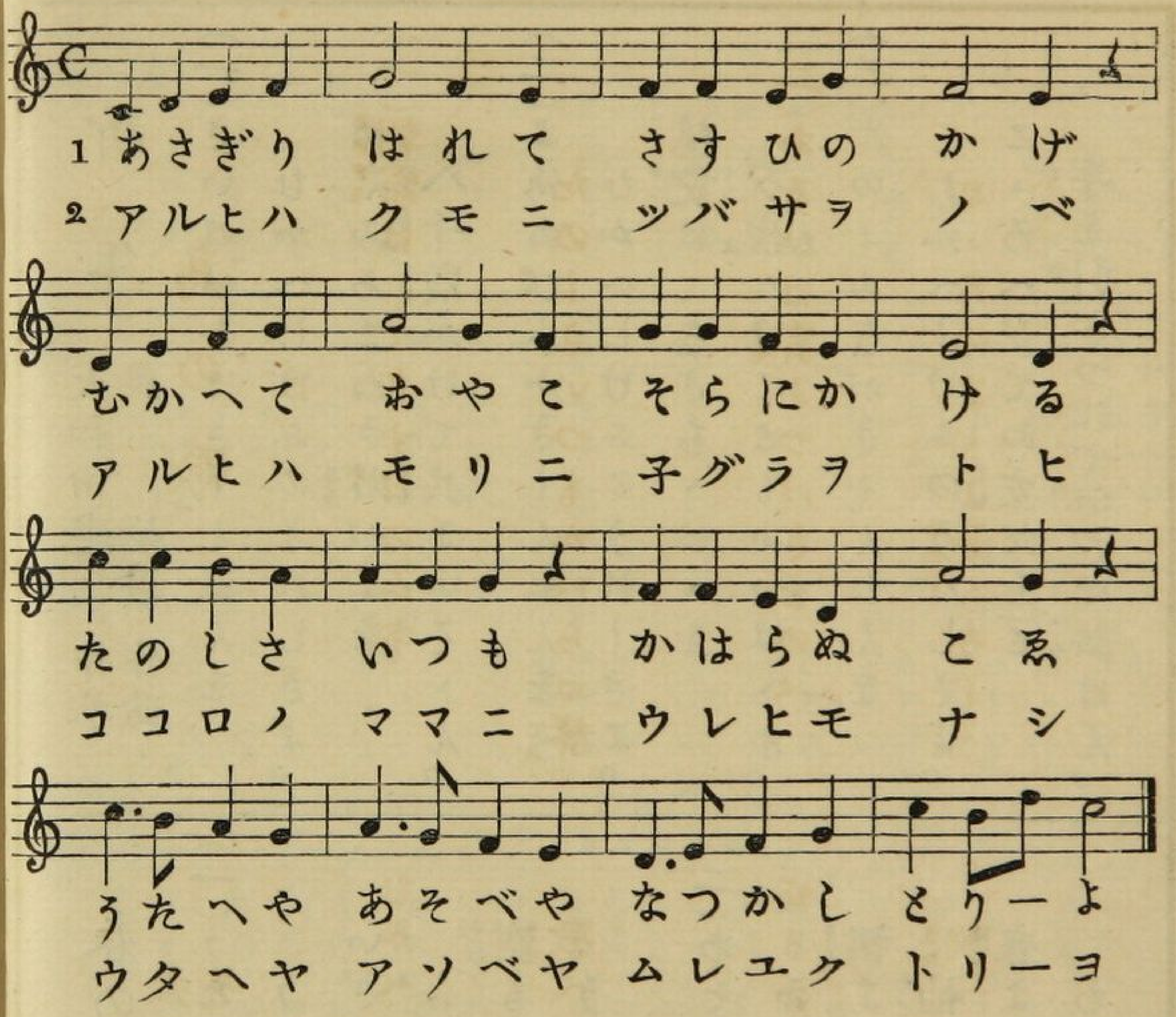
(三)たのしみながきしんねんを
むかへしけふのうれしさよ。
こゝろへだてぬ友だちと
手を引きつれていざや謡はん。

春の歌

大和田建樹 作歌

(一)うたへうたへ春をむかへて。
うたへうたへ鳥とともに。
いざや野も山も歌の聲そへて
合はせそれ調かへせこだま。
空ものどか花もさかり。
うたへうたへ鳥よともよ。

(二)あそべあそべ野邊の芝生に。
あそべあそべ蝶とともに。
裾にちる露もけさは心地よや。
袖にふく風もけふはうれし。
春よ友よこゝろゆたかに
われとあそべあそべうたへ。

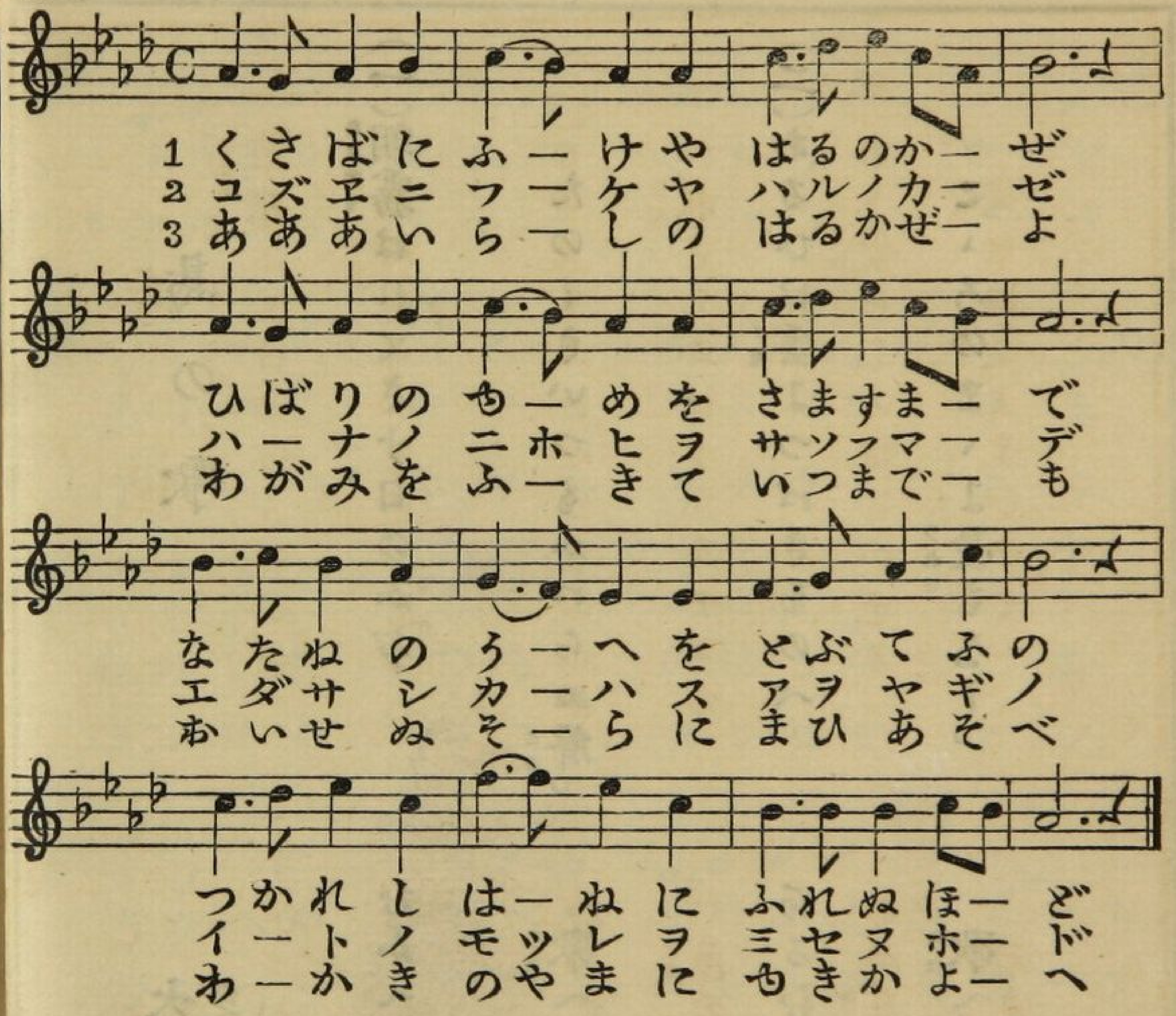


鳥の歌

大和田建樹 作歌
芝葛鎮 作曲

(一)朝霧はれてさす日のかげ
むかへて親子そらに翔る。
たのしきいつもかはらぬ聲。
歌へや遊べやなつかし鳥よ。

(二)あるひは雲につばさをのべ
あるひは森にねぐらをとひ
こゝろのまゝに憂もなし。
歌へや遊べやむれゆく鳥よ。



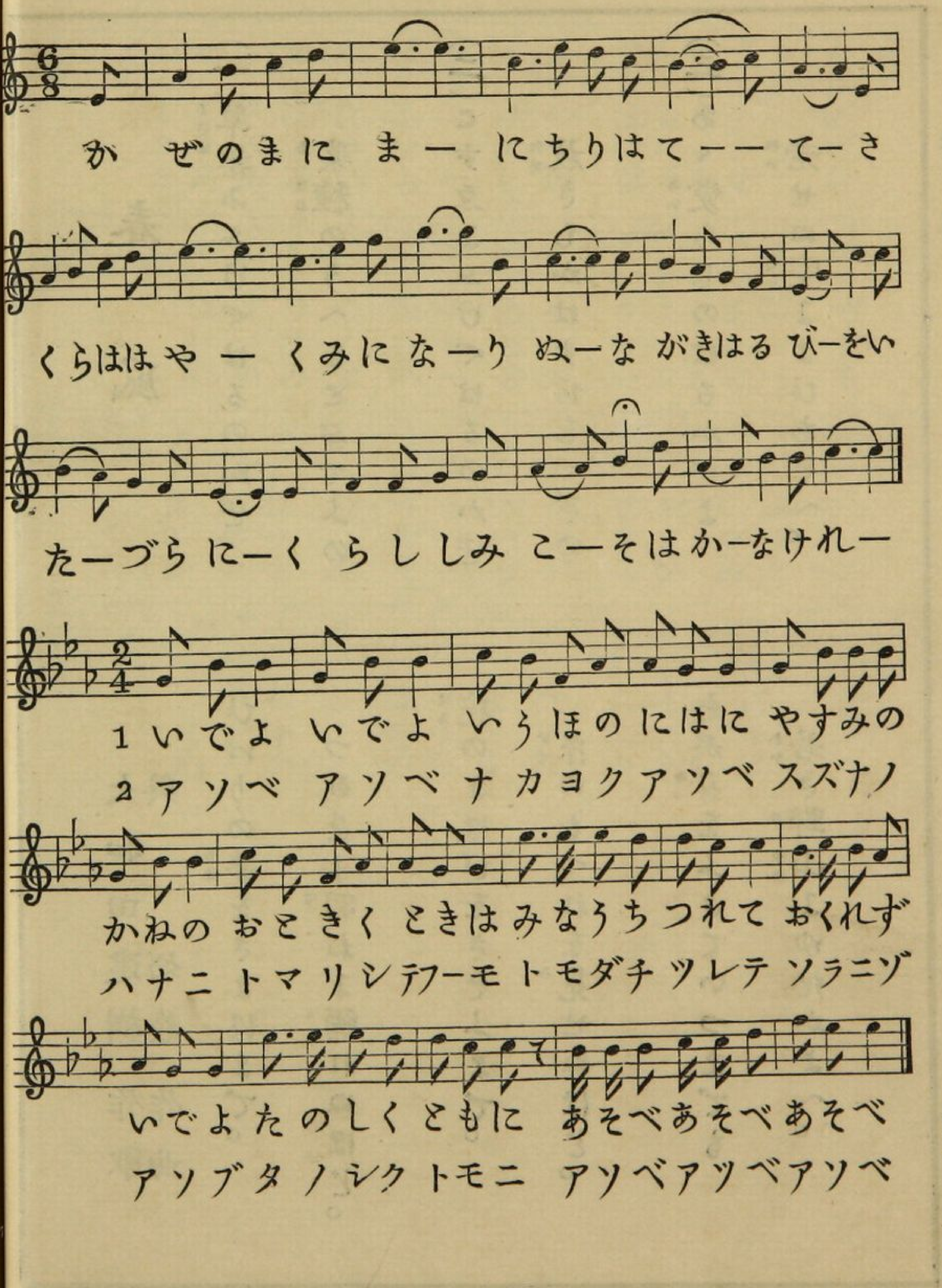
春風

大和田建樹 作歌
奥好義 作曲

(一)草葉にふけやはるのかぜ
ひばりの夢をさますまで。
菜種のうへをとぶてふの
つかれし羽ねに觸れぬほど。

(二)こずゑにふけやはるのかぜ
花のにほひをさそふまで。
枝さしかはすあをやぎの
糸のもつれを見せぬほど。

(三)あゝ愛らしのはるかぜよ
わが身をふきていつまでも
老せぬ空にまひあそべ。
若き野山にゆきかよへ。



暮春

税所あつ子 作歌
上真行 作曲

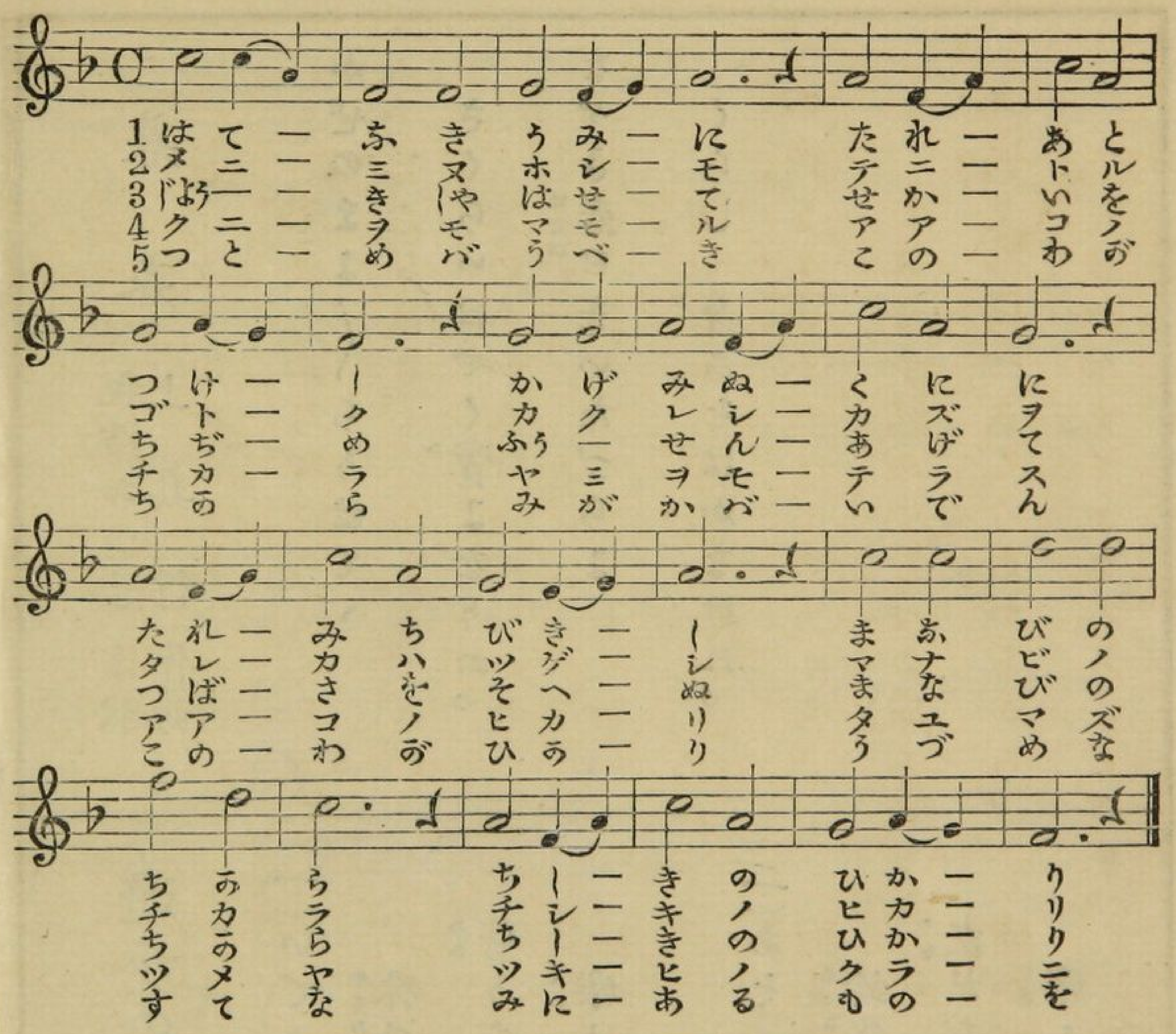
かぜのまに〳〵ちりはてゝ、
さくらははやく實になりぬ。
ながき春日をいたづらに
くらしゝ身こそはかなけれ。

遊歩の庭

大和田建樹 作歌

(一)いでよいでよ遊歩の庭に。
休のかねのおときく時は
皆うちつれておくれずいでよ。
樂しく共に遊べあそべ。

(二)あそべあそべ中よく遊べ。
鈴菜花にとまりしてふも
友だちつれて空にぞあそぶ。
樂しく共に遊べ遊べあそべ。



學の力

大和田建樹作歌
上真行作曲

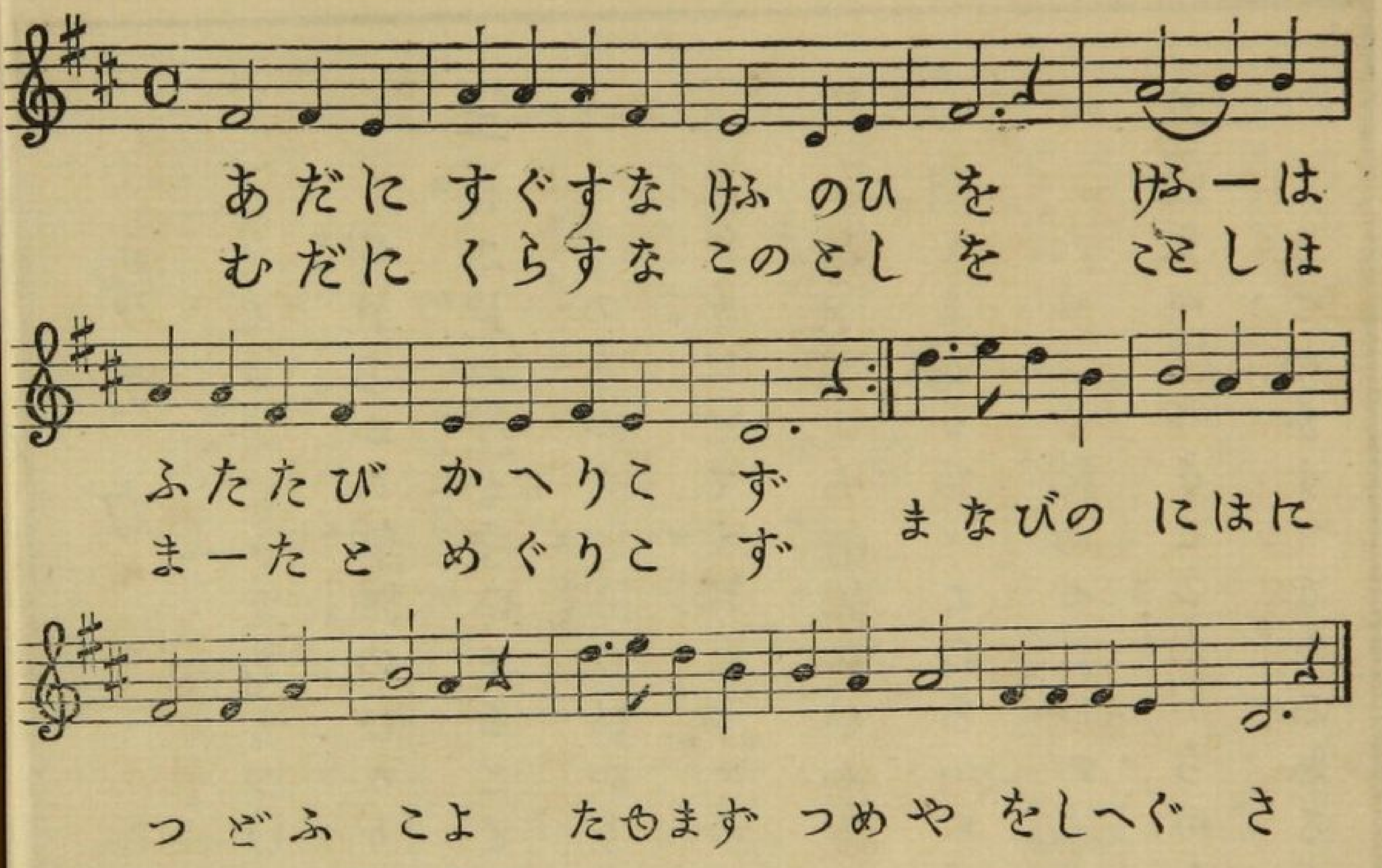
(一)はてなき海にさをあとつけし。
影見ぬ國にたれみちびきし。
學びちから智識のひかり。

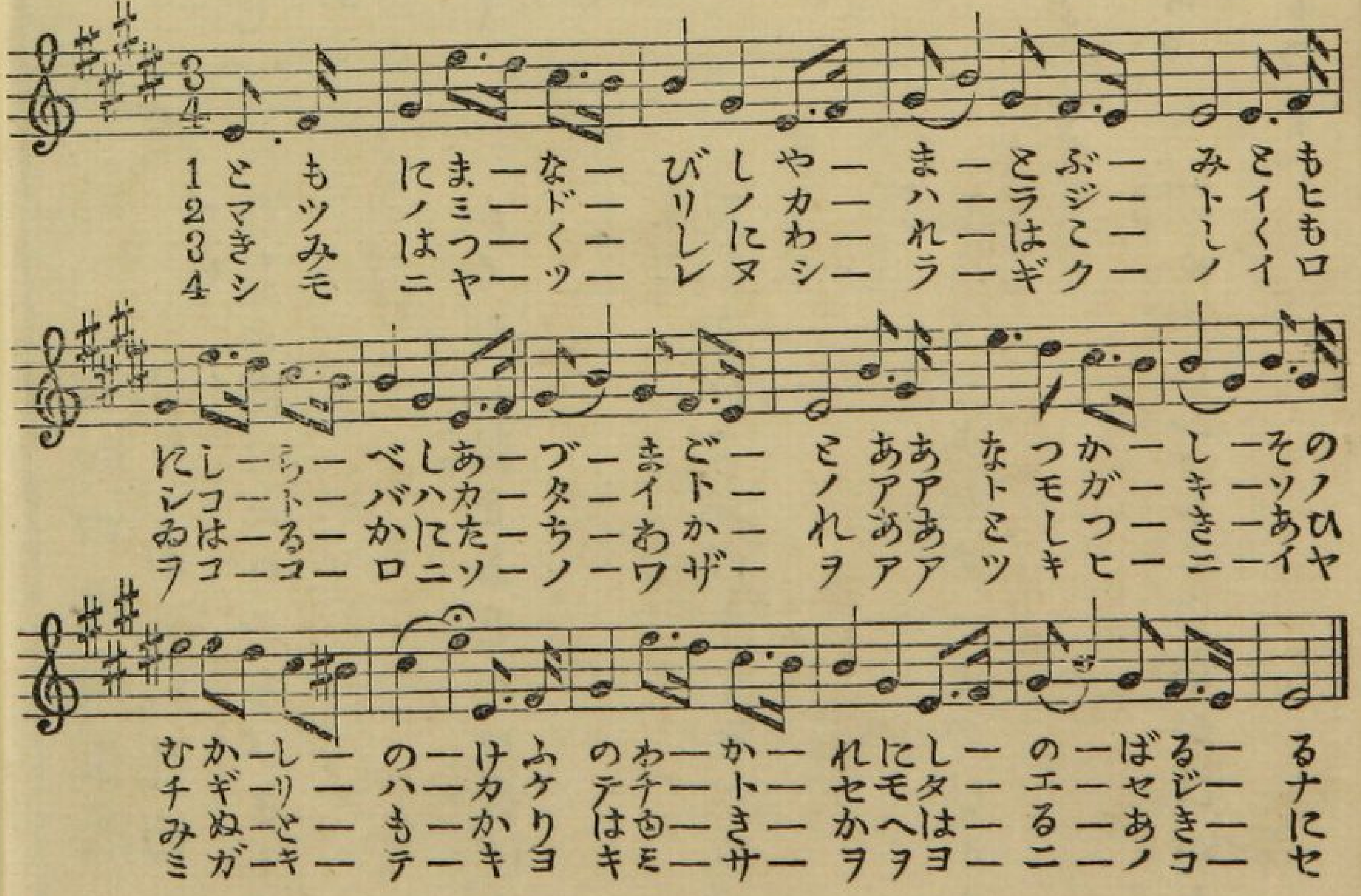
(二)目に見ぬ星も手にとるごとく
かくれし數をあきかに告げし。
學のちから智識のひかり。

(三)蒸氣車はせて世界をちゞめ
風船あげてつばさをそへぬ。
學びちから智識のひかり。

(四)國をも守るも、このちから。
暗をも照らすも、このひかり。
たゆまず積めや月日の庫よ。

(五)勉めば得べきこのわがちから。
研かばいでんこのわがひかり。
うづめなすてな身にあるものを。





勸學の歌

高崎正風 作歌
奥好義 作曲

あだにすぐすなけふの日を
けふはふたゝび歸り來ず。
むだにくらすなこの年を。
ことしはまたと回り來ず。
學のにはにつどふ子よ
たゆまずつめやをしへ草。

共に學びし

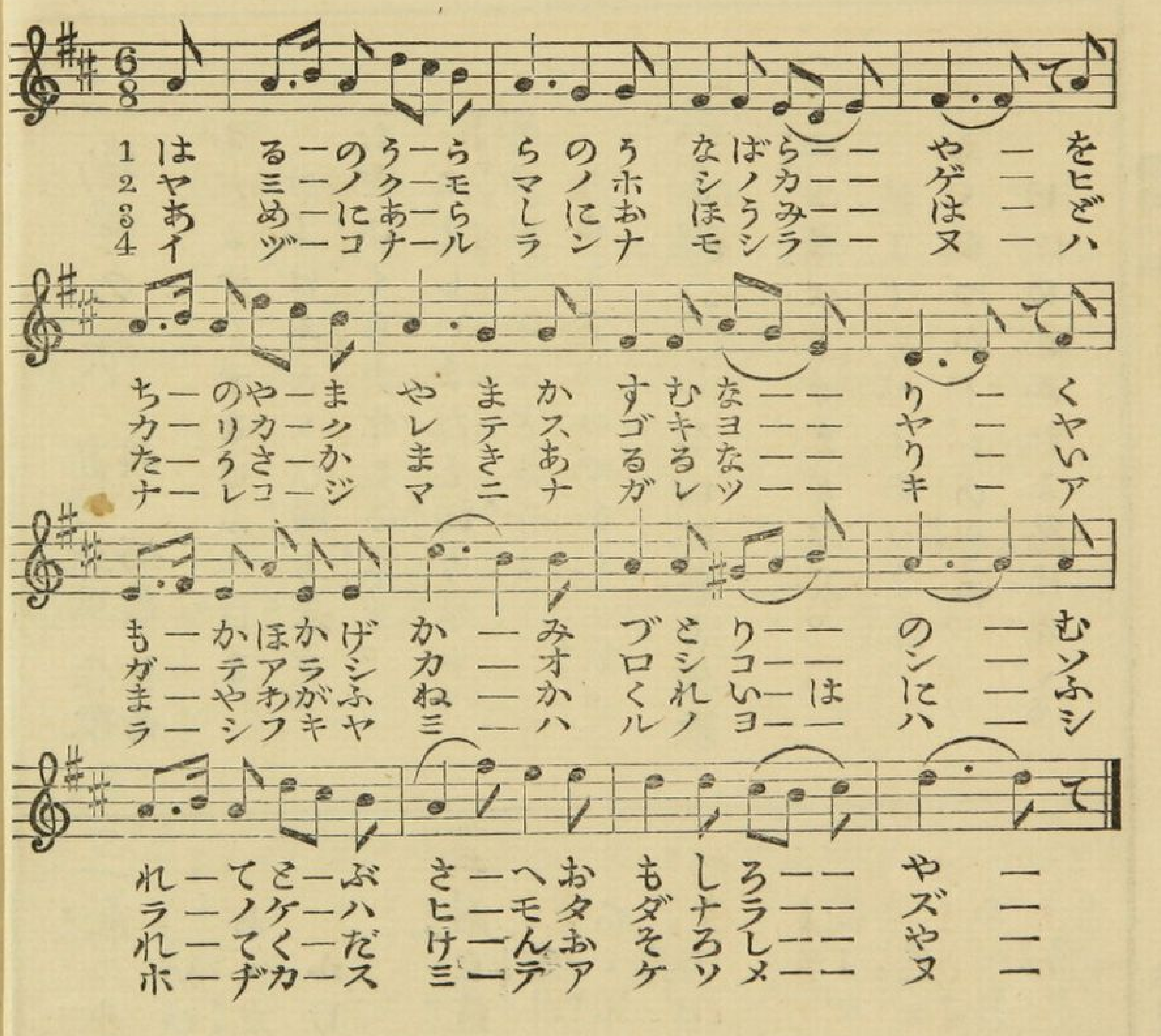
矢田部良吉作歌

(一)共に學びしやまとぶみ。
共にしらべしあづま琴。
あゝなつかし、その昔の
けふのわかれに忍ばるゝ。

(二)松のみどりのかはらじと
いひし言葉はかた糸の
あゝ友垣そのちぎりは
かけて千年もたにせじな。

(三)君は筑紫にわれは越
雲井はるかに立ちわかれ
行く年月あひみぬとも
雁はゆきかへ春秋に。

(四)霜にやつれぬ白菊の
色をこゝろにそのわざを
あゝ月日にいやみがきて
清きみさをと世にのこせ。



二月の海路

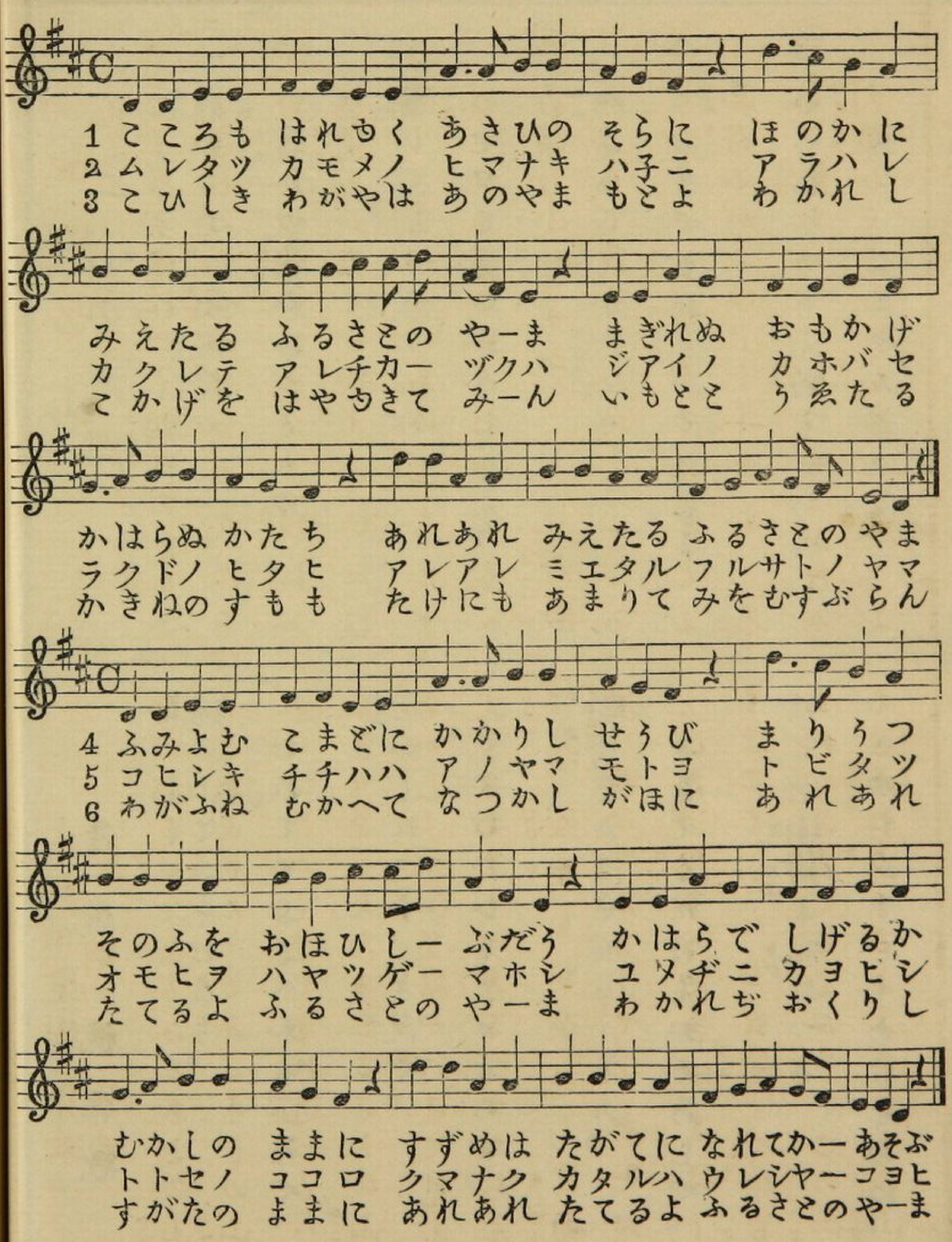
鳥居　忱　作歌

(一)春のうら〻の海原や
雲か帆影かみづとりの
遠の山々かすむなり。
むれてとぶさへおもしろや。

(二)闇の雲間の星のかげ
やがて嵐かおろしこん。
光かくれてすごき夜や。
空のけはひもたゞならず。

(三)雨にあらしに大海は
怒濤さかまき荒るゝなり。
いまやわが船かくれ岩に
ふれてくだけんおそろしや。

(四)いづこなるらん名も知らぬ
はなれ小島に流れつき
あらしふきやみ春の夜は
しほぢかすみてあけそめぬ。



故郷の山

大和田建樹作歌
辻則承作曲

(一)こゝろも晴れゆく朝日のそらに　ほのかに見えたるふるさとの山。
まぎれぬ面影かはらぬかたち。　あれあれ見えたるふるさとの山。

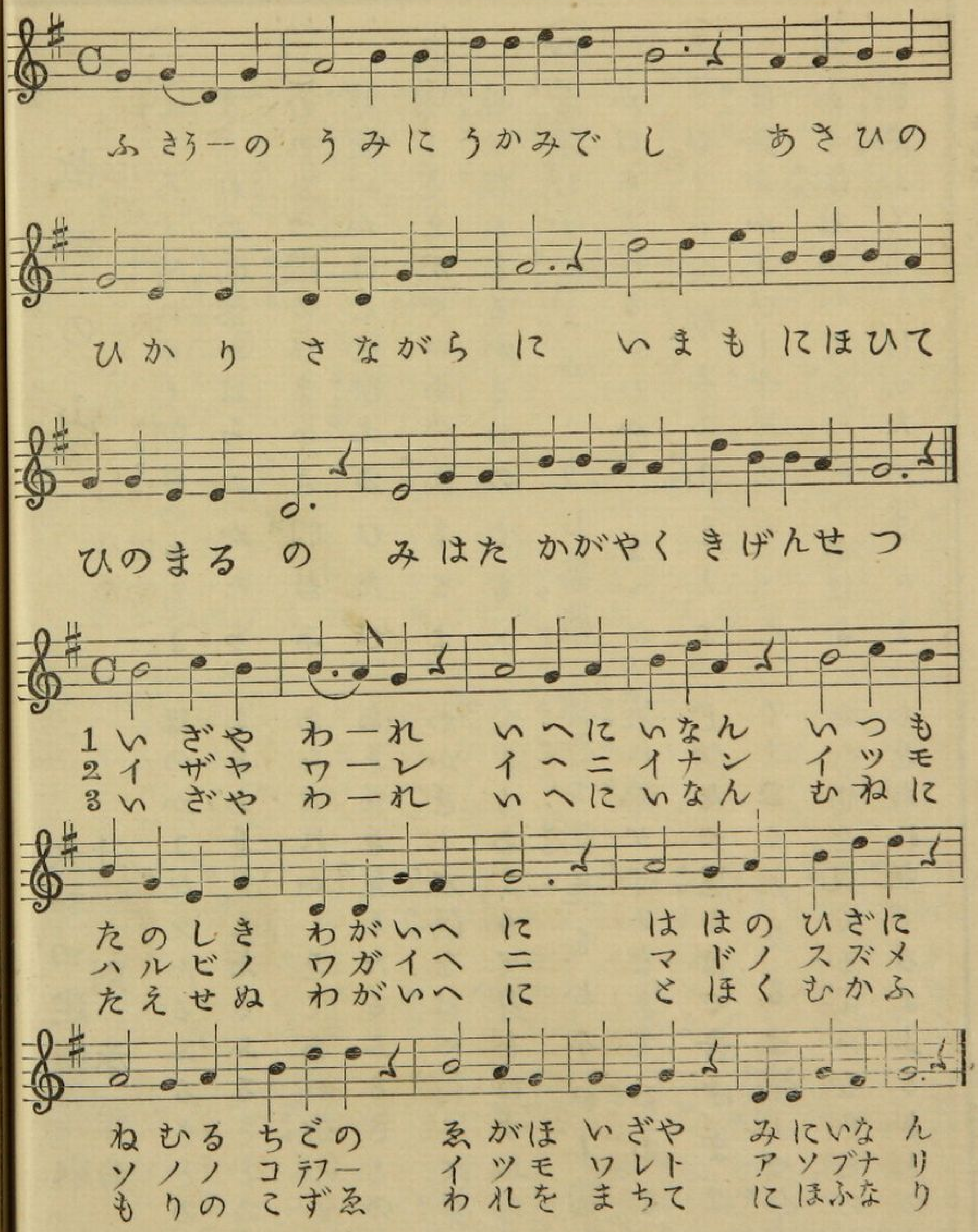
(二)むれたつ鷗のひまなき羽ねに　あらはれかくれてあれ近づくは
慈愛のかほばせ樂土のひたひ。　あれあれ見えたるふるさとの山。

(三)戀しきわが家はあの山もとよ。　わかれし木蔭をはや行きて見ん。
妹と植ゑおけるかきねのすもゝ　丈にもあまりて身をむすぶらん。

(四)書讀む小窓にかゝりし薔薇　毬打つ園生をおほひし葡萄
かはらで茂るかむかしのまゝに。　雀は誰が手になれてかあそぶ。

(五)こひしき父母あの山もとよ。　とびたつ思をはや告げまほし。
夢路にかよひし十年のこゝろ　くまなくかたるは嬉しや今宵。

(六)わが船むかへてなつかしがほに　あれあれ立てるよふるさとの山。
別路おくりしすがたのまゝに　あれあれ立てるよふるさとの山。



紀元節

下田うた子 作歌
奥好義 作曲

扶桑(ふさう)の海(うみ)にうかみでし
あさひの光(ひかり)さながらに
いまもにほひて日(ひ)の丸(まる)の
御旗(みはた)かゞやく紀元節(きげんせつ)。

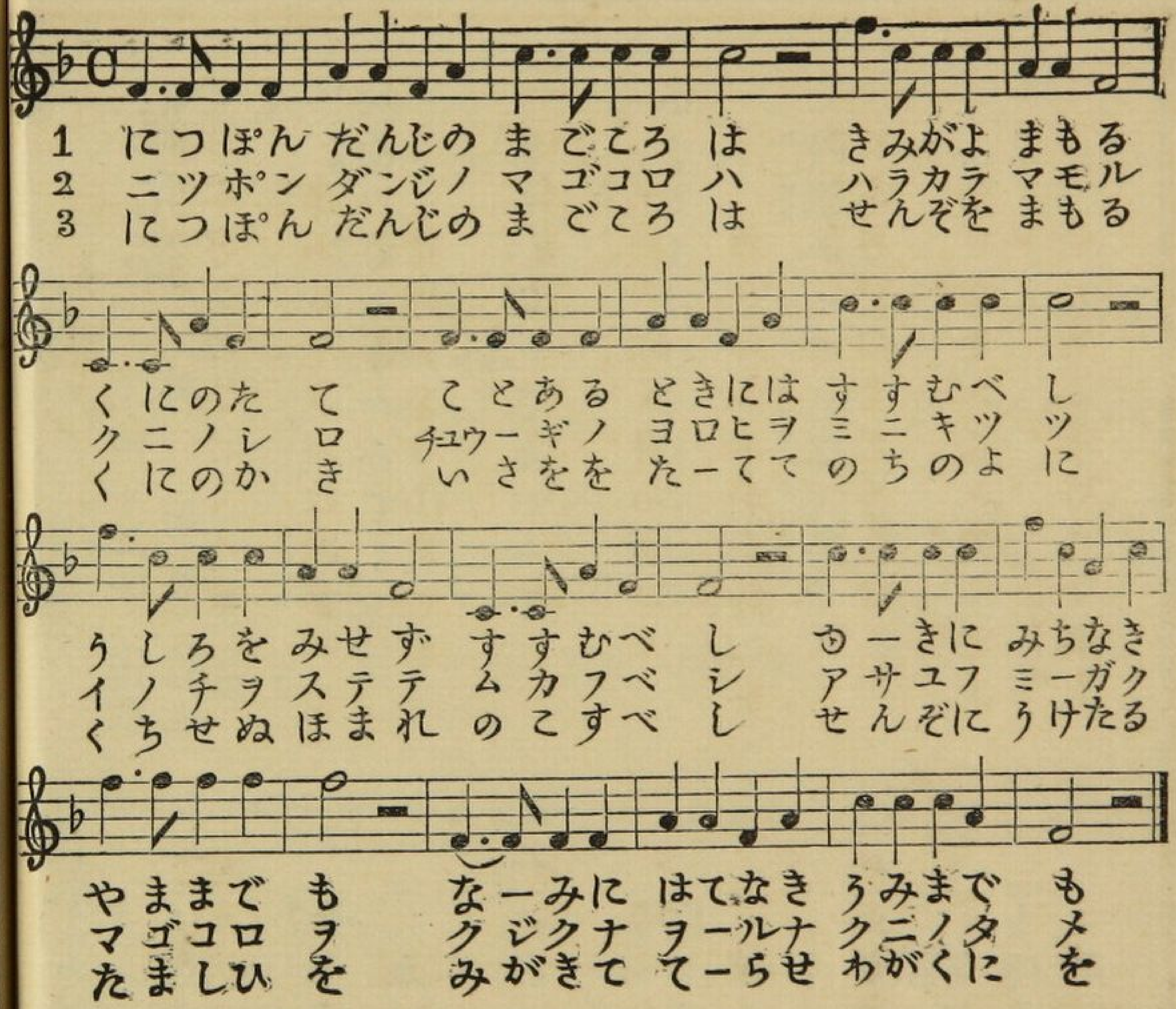
家にいなん

大和田建樹 作歌

(一)いざやわれ家(いへ)にいなん
いつも楽(たの)しきわが家(いへ)に。
母(はゝ)のひざにねむるちごの
ゑがほいざや見(み)にいなん。

(二)いざやわれ家(いへ)にいなん
いつも春日(はるび)のわが家(いへ)に。
窓(まど)のすゞめ園(その)のこてふ
いつもわれと遊(あそ)ぶなり。

(三)いざやわれ家(いへ)にいなん
胸(むね)に絶(た)えせぬわが家(いへ)に。
とほくむかふ森(もり)のこずゑ
われをまちてにほふなり。



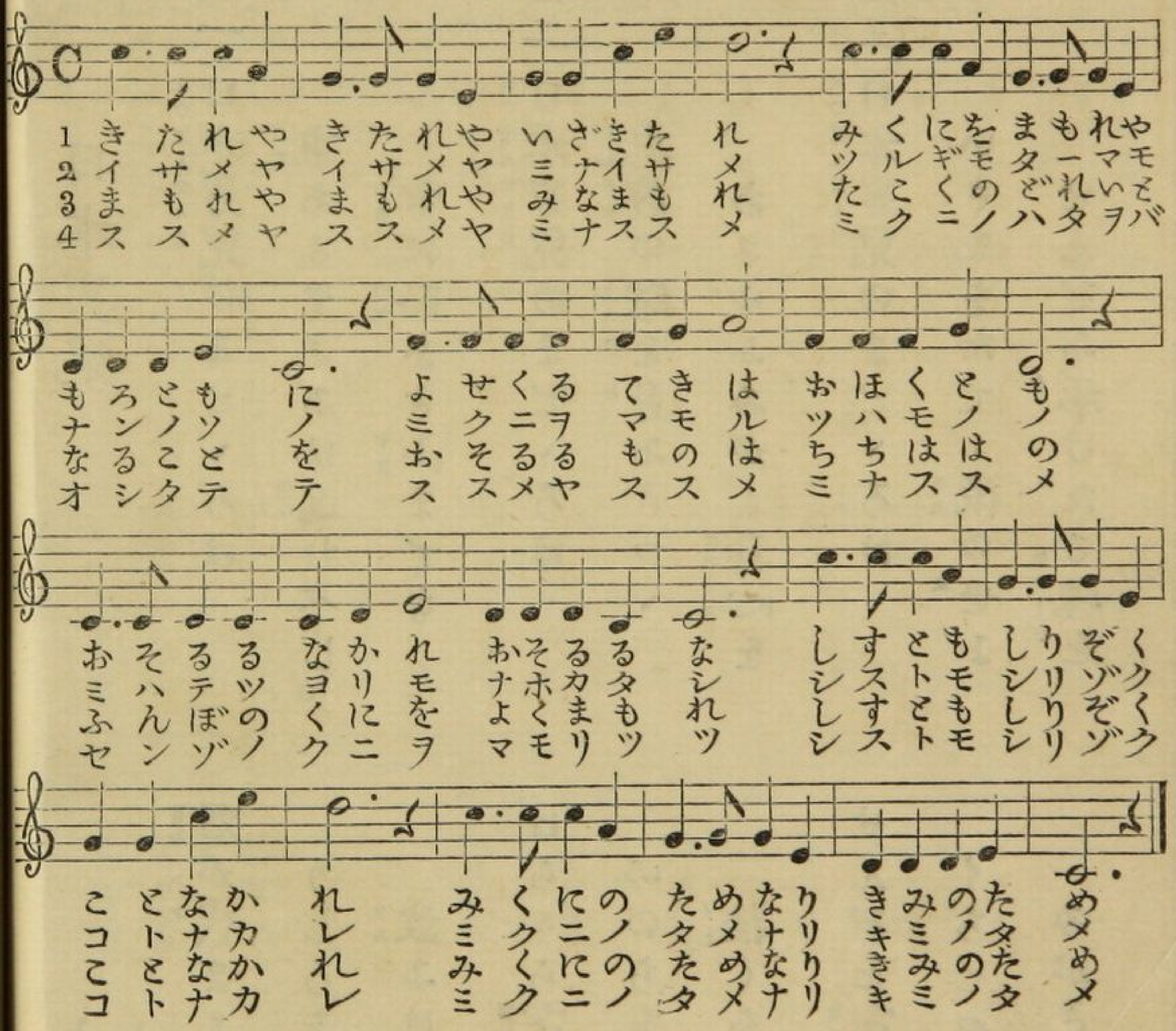
日本男兒

大和田建樹作歌
上眞行作曲

(一)日本男兒のまごゝろは　君が代まもる國の楯。
事あるときは進むべし。　うしろを見せず進むべし。
雪に路なき山までも　波にはてなき海までも。

(二)日本男兒のまごゝろは　はらから守る國の城。
忠義の鎧を身にきつゝ　いのちをすてゝむかふべし。
あさゆふみがく眞心を　挫くな折るな國のため。

(三)日本男兒のまごゝろは　せんぞを守る國の垣。
いさををたてゝ後の世に　くちせぬ譽のこすべし。
せんぞに承けたる魂を　みがきて照らせわが國を。



皇國の守

（作者許可）

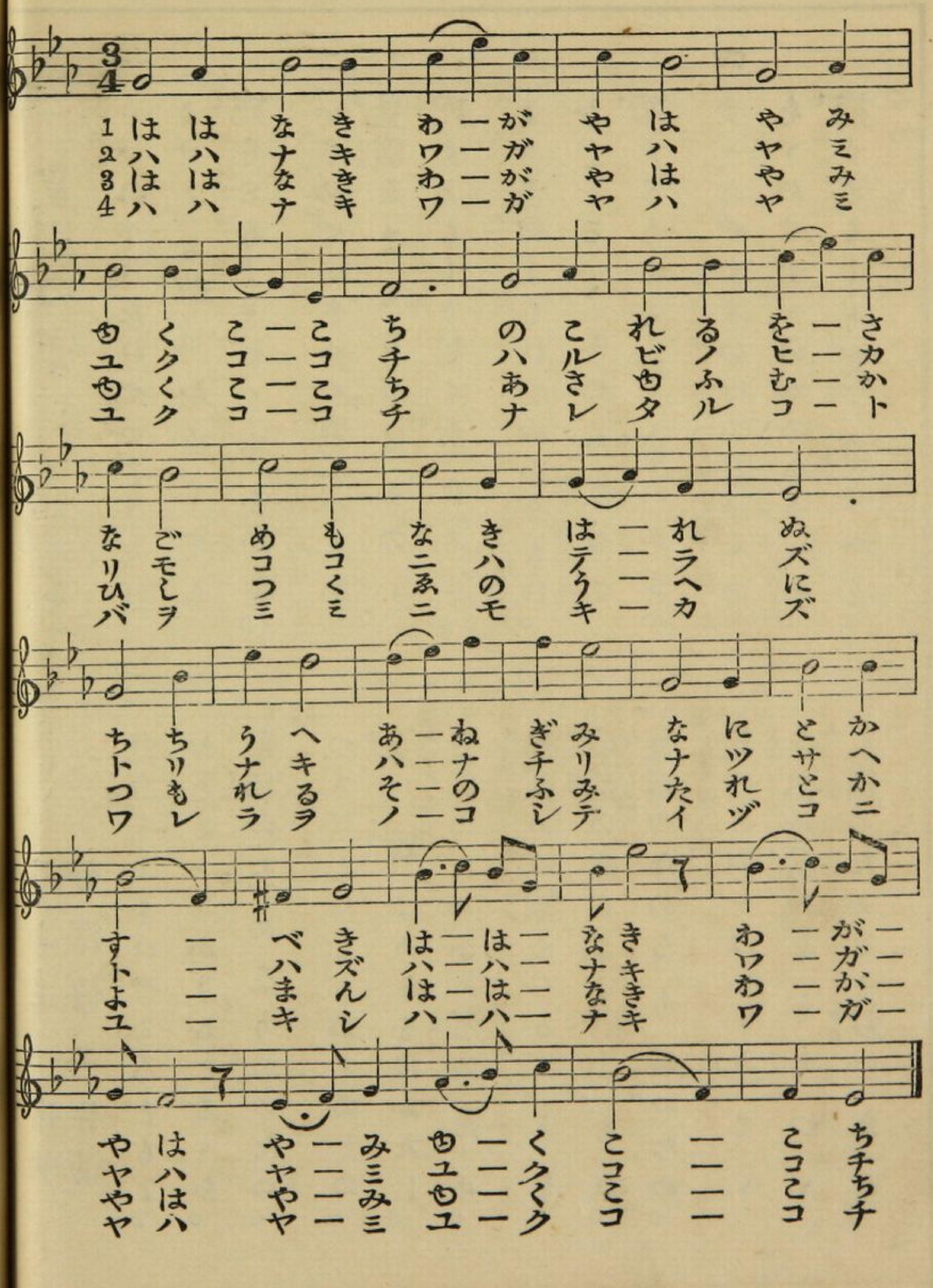
外山正一作歌
伊澤修二作曲

（一）きたれやきたれやいざきたれ。
皇國をまもれやもろともに。
よせくる敵はおほくとも、
おそるゝなかれおそるゝな。
死すともしりぞく事なかれ。
皇國のためなり君のため。

（二）いさめやいさめやみないさめ。
つるぎもたまもなんのその。
皇國をまもるつはものゝ、
身は鐵よりもなほかたし。
死すともしりぞく事なかれ。
皇國のためなり君のため。

（三）まもれやまもれやみなまもれ。
他國の奴隷となることを
おそるゝものは父母の
墳墓の國をよくまもれ。
死すともしりぞく事なかれ。
皇國のためなり君のため。

（四）すゝめやすゝめやみなすゝめ。
皇國の旗をばおし立てゝ、
すゝめやすゝめやみなすゝめ。
先祖の國をまもりつゝ、
死すともしりぞく事なかれ。
皇國のためなり君のため。



母なき吾屋

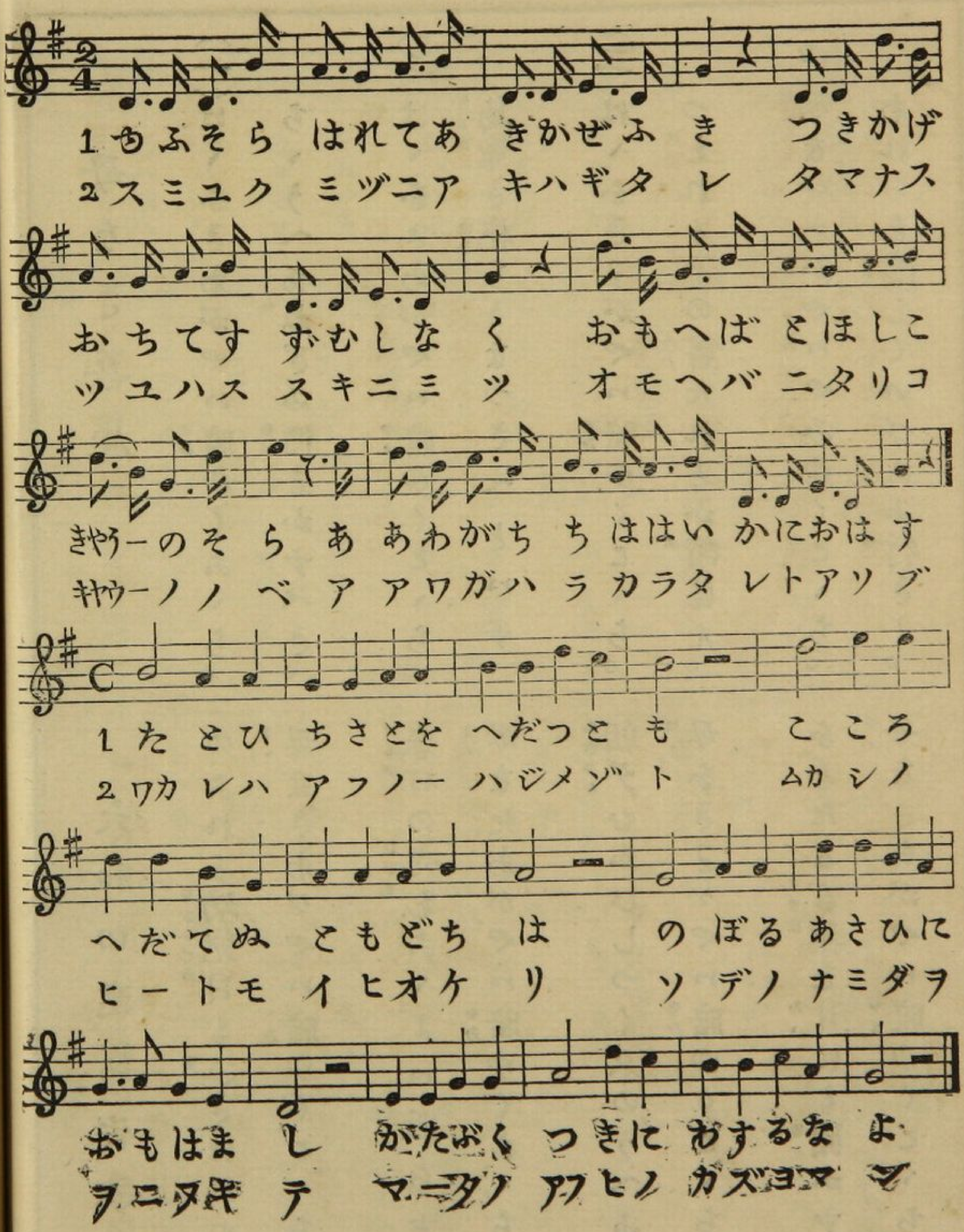
大和田建樹作歌

(一)はゝなきわがやは暗ゆくこゝち。ちゝうへ何ねざみ何とかすべき。のこれる幼兒目も泣きはれぬ。母なきわがやは暗ゆくこゝち。

(二)はゝなきわがやは暗ゆくこゝち。鳥啼き花ちりなつさへとはず。春日の光えこゝには照らず。母なきわがやは暗ゆくこゝち。

(三)はゝなきわがやは暗ゆくこゝち。つえれるその書たれとか讀まん。朝夕むかひしつくゑのうへふ母なきわがやは暗ゆくこゝち。

(四)母なきわがやはやみゆくこゝち。われらを遺していづこに行きし。なきたる言葉を耳にも聞かず。母なきわがやは暗ゆくこゝち。



故郷の空　大和田建樹 作歌

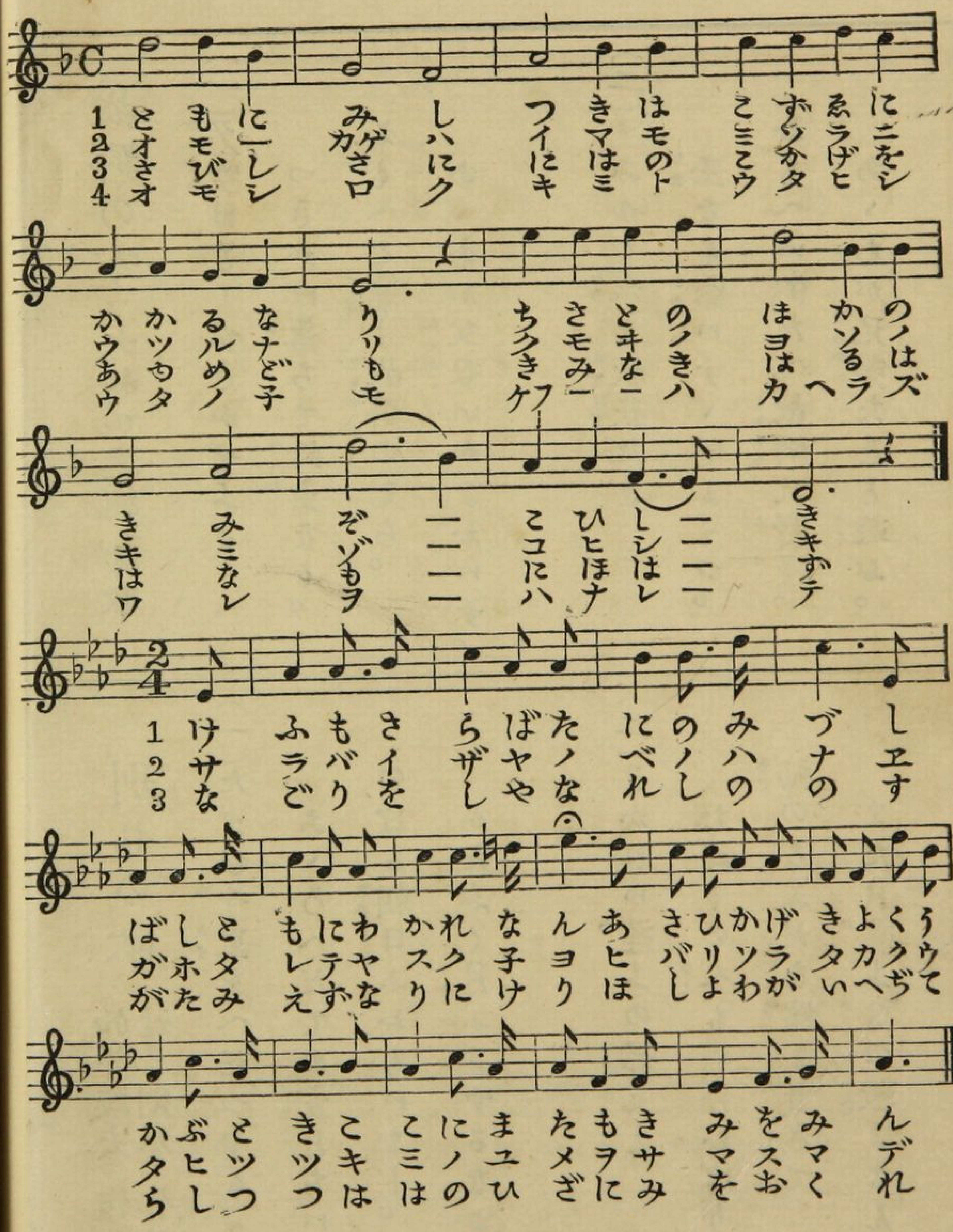
（一）夕空はれてあきかぜふき
　　つきかげ落ちて鈴虫なく。
　おもへば遠し故郷のそら。
　　あゝわが父母いかにおはす。

（二）すみゆく水に秋萩たれ
　　玉なす露はすゝきにみつ。
　おもへば似たり故郷の野邊。
　　あゝわが兄弟たれと遊ぶ。

別れの歌　加部嚴夫 作歌　辻則承 作曲

（一）たとひ千里をへだつとも
　　こゝろへだてぬ友どちは
　のぼる朝日におもはまし。
　　かたぶく月にわするなよ。

（二）わかれは逢ふの始ぞと
　　むかしの人もいひおけり。
　袖のなみだを緒に貫きて
　　またの逢ふ日の數よまん。



千里の友

大和田建樹 作歌
奥 好義 作曲

(一)共に見し月は梢にかゝるなり。
千里の外の君ぞこひしき。

(二)面影は今もみ空にうつるなり。
雲井のよその君ぞ戀しき。

(三)淋しさに庭の木蔭を歩めども
君なき春は花もにほはず。

(四)面白く君と謡ひし歌のねも
けふは歸らず吾をはなれて。

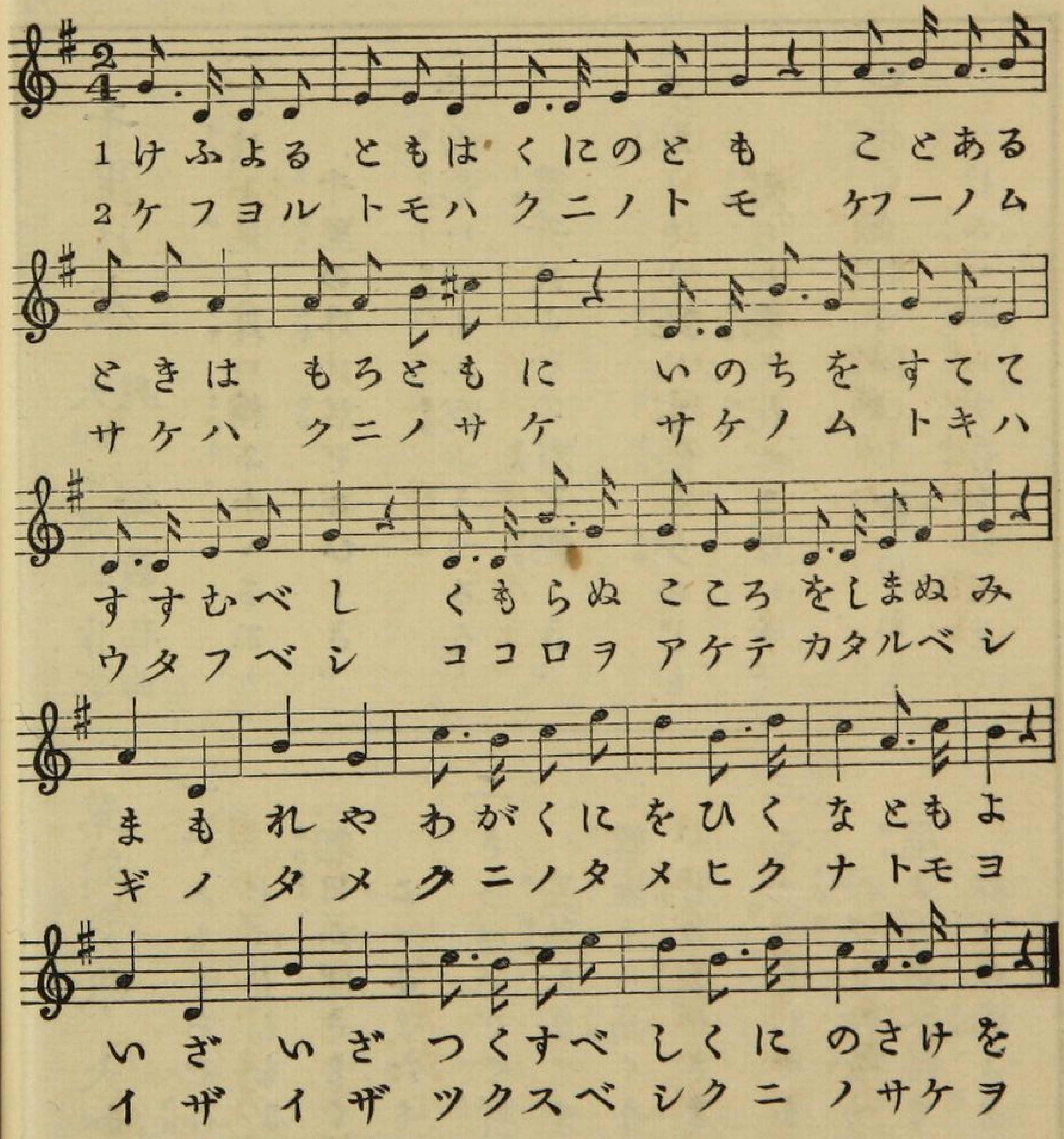
草刈の歌

大和田建樹 作歌

(一)けふもさらむ谷の水
しばしともに別れなん。
朝日かげきらく浮ぶとき
こゝにまたも君を見ん。

(二)さらばいざや野邊の花
笑顔たれてやすく寐よ。
雲雀そら高くうたひつゝ、
君の夢をさますまで。

(三)なごりをしやなれし野の
姿みえずなりにけり。
星よわが家路てらしつゝ、
はゝの膝に身をおくれ。

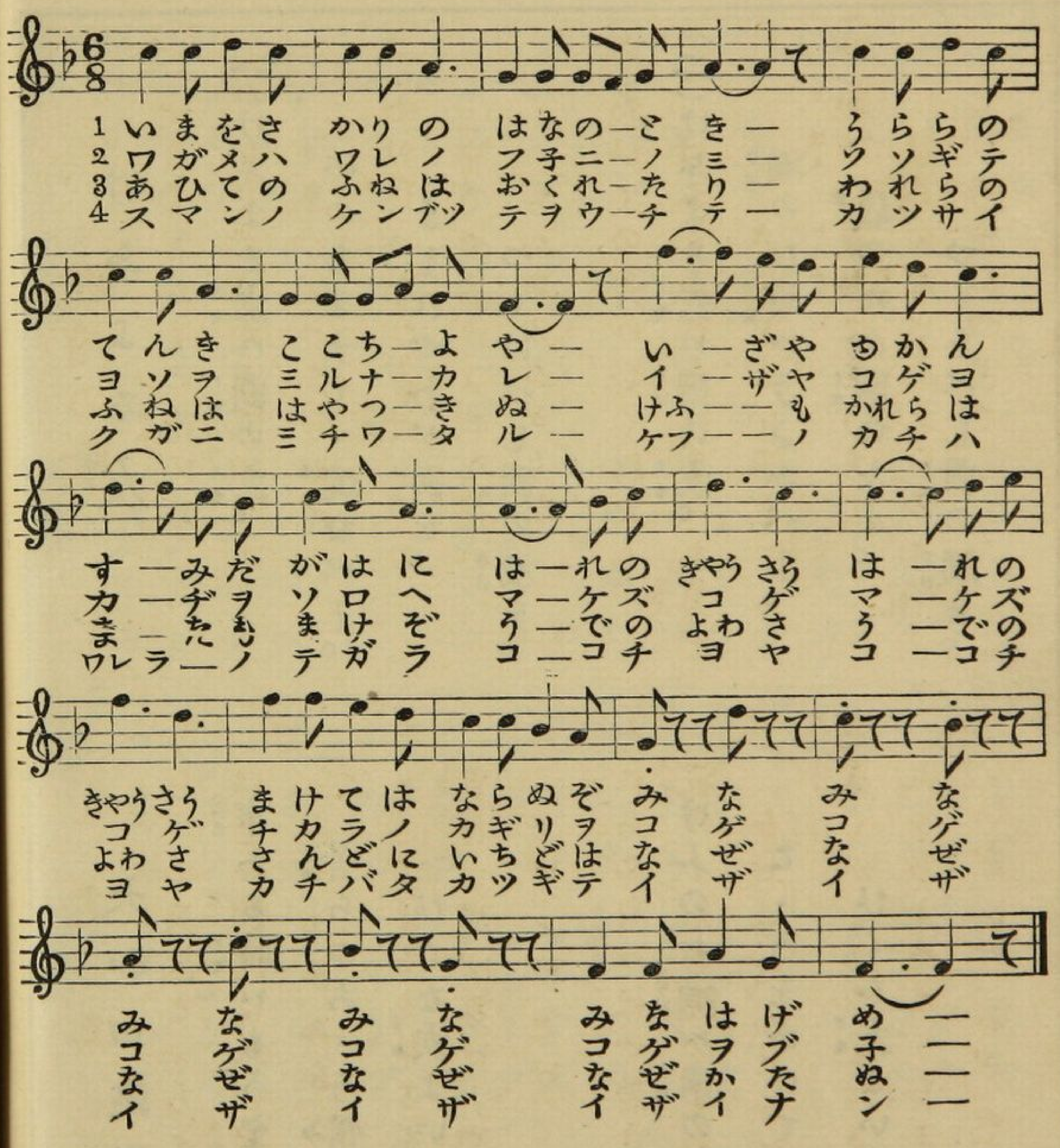


けふよる友

大和田建樹作歌

(一)けふよる友は國の友。
事ある時はもろともに
いのちをすてゝ進むべし。
曇らぬこゝろ惜しまぬ身。
まもれやわが國を。
ひくな友よいざいざ
つくすべし國の酒を。

(二)けふよる友は國の友。
けふのむ酒は國の酒。
酒のむ時はうたふべし。
こゝろをあけて語るべし。
義のため國のため。
ひくな友よいざいざ
つくすべし國の酒を。



競漕の歌

上　真　行　作歌 作曲

(一)いまをさかりの花の時
いざやゆかん隅田河へ。
まけてはならぬぞ

うらゝの天氣こゝちよや。
はるの競漕はれの競漕。
みな、みな、みな、みな、みな励め。

(二)わが目にはわれの舟よのみ
いざやおげよ楫を揃へ
ちからのかぎりを

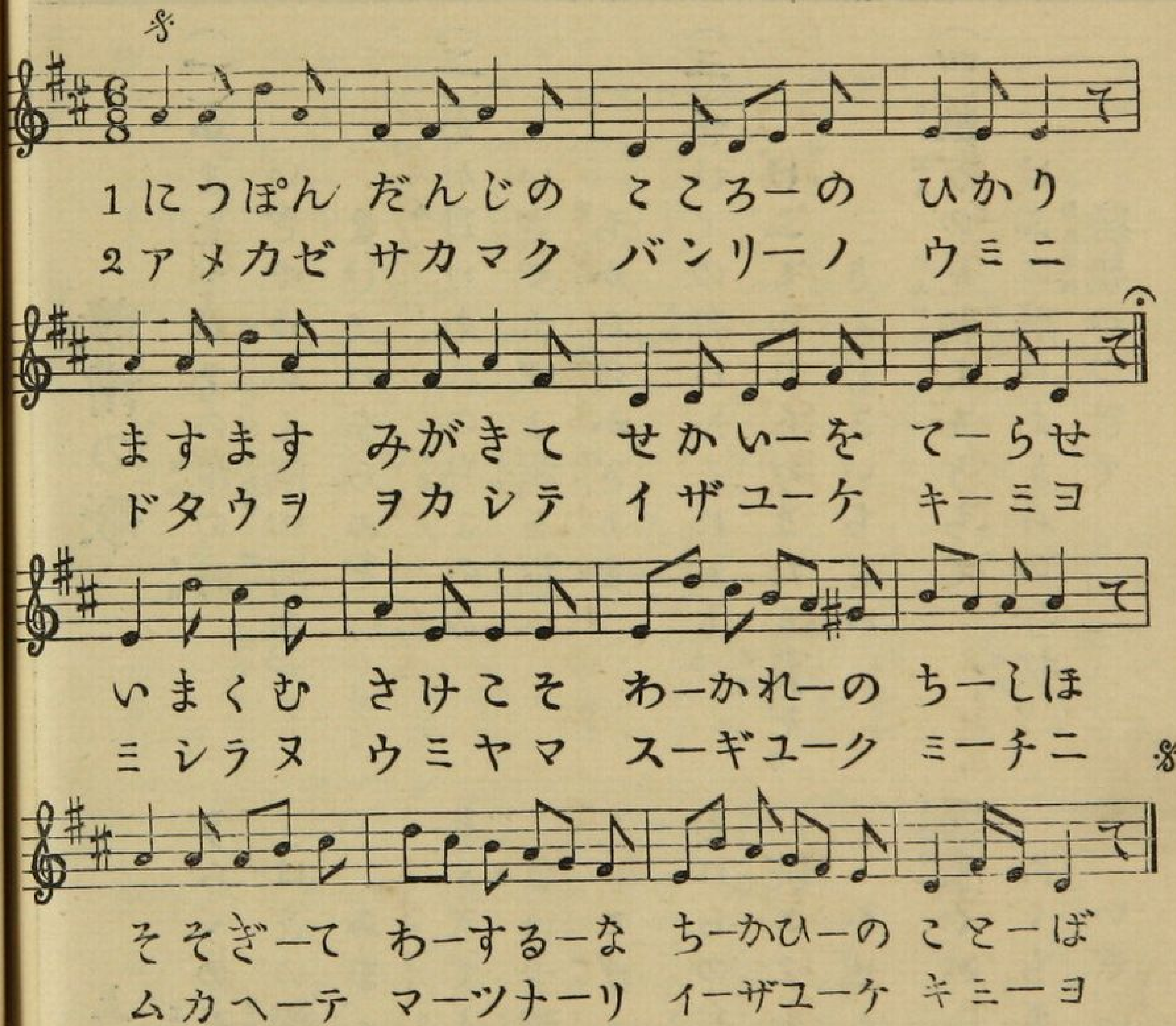
そゝぎてよそを見るなかれ。
負けず漕げ負けず漕げ。
こげ こげ、こげ、こげ こげ小舟。

(三)あひての舟はおくれたり。
けふもかれらはまたも負ぞ。
さんどよいちどは

われらの舟ははや着きぬ。
腕のよわさ腕のよわさ。
なぜ、なぜ、なぜ、なぜ勝たぬ。

(四)數万の見物てをうちて
けふの勝はわきらの手柄。
勝旗かつぎて

喝采くがふみちよたる。
おゝちよやこゝちよや。
いざ、いざ、いざ、いざいざいなん。

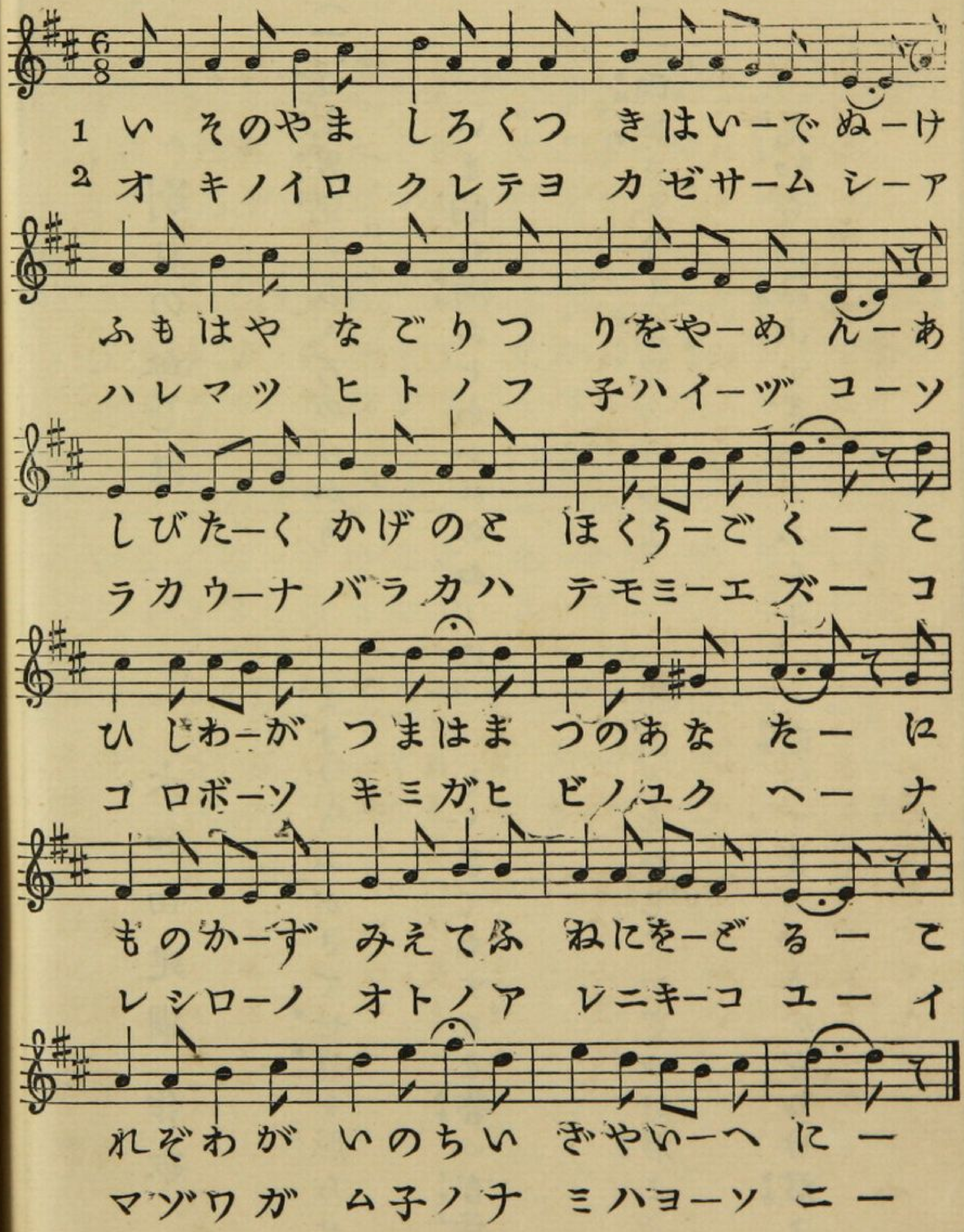


別れの血しほ

大和田建樹　作歌

(一)日本男兒のこゝろのひかり
ます／＼みがきて世界を照らせ。
いま酌む酒こそわかれの血しほ。
そゝぎてわするな誓の言葉。

(二)雨風さかまく萬里のうみよ
怒濤ををかしていざゆけ君よ。
見知らぬ海山すぎゆくみちに
迎へてまつなりいざゆけ君よ。

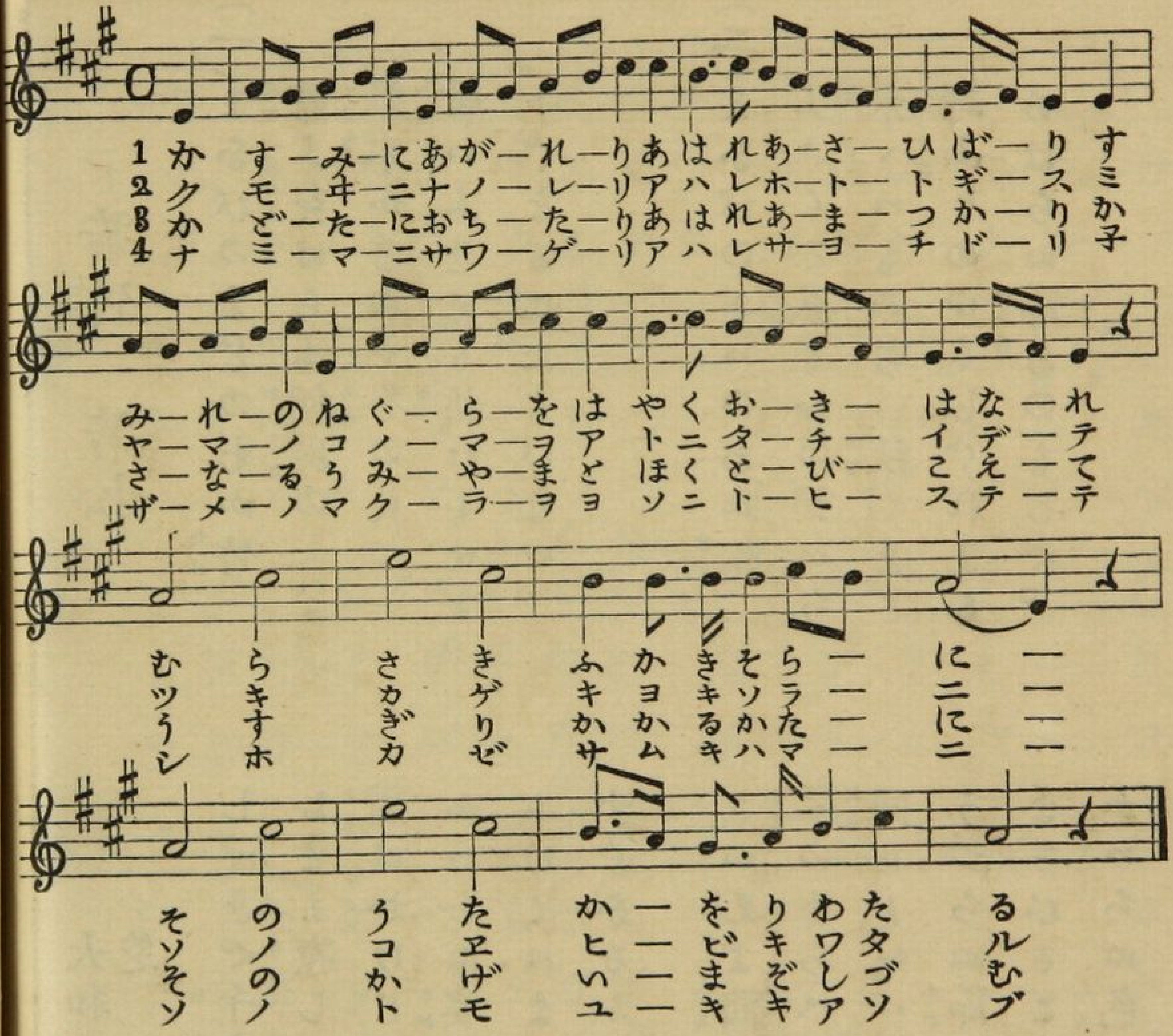


若竹 若松

大和田けい子 作歌
芝 葛鎮 作曲

(一)まなびのまどのわか竹
露ふみはらふ朝風の
草木かれゆく冬のみて
雪はふれども折れもせず。
すぐなる心たぐひなや。
しげれや千代のすゑかけて。
おとも涼しくかよふなり。
霜はおけどもいろあせず
かはらぬ姿たぐひなや。
あけくれまなびの友とみん。
すぐなるふしを友とせん。

(二)まなびのにはのわか松
ふきくる風もおのづから
木々はもみぢの秋くれど
野山そめゆくしぐれにも
あはらぬ節はのもしや。
さかえよ鶴の巣ぐふまで。
琴のしらべに通ふまで。
同じとみゝの陰ふかく
うつらぬ節たのもしや。
よるひるこゝろの友とみん。
かはらぬ色を友とせん。



朝雲雀

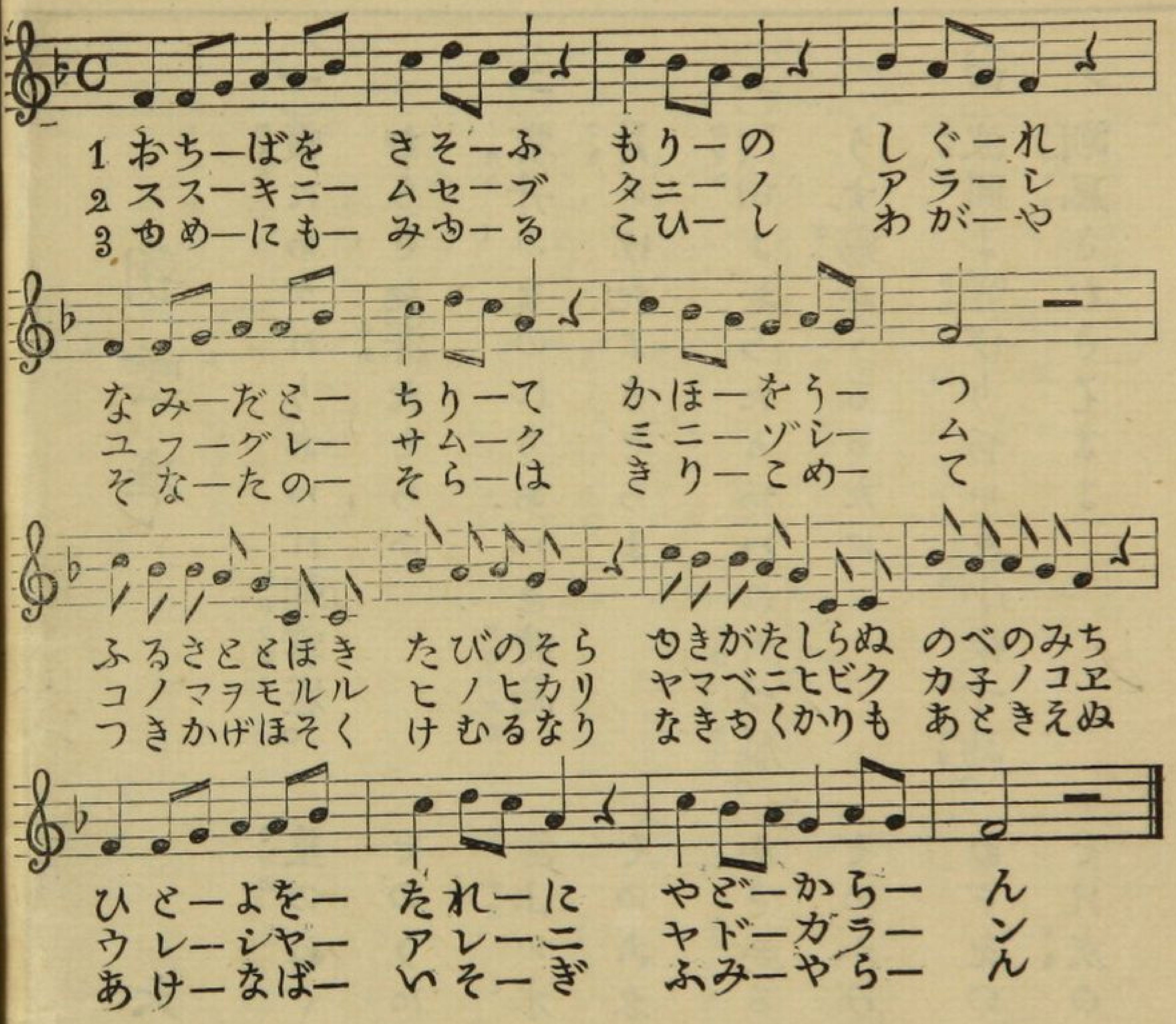
大和田建樹 作歌

(一)霞にあがれりあはれ朝雲雀。菫のねぐらを早くおきはなれ
むらさき深きそらに そのうたかをりわたる。

(二)雲井になのれりあはれ時鳥。深山の木の間をあとに立ちいで、
月のかげきよきそらに そのこゑひゞきわたる。

(三)門田におちたりあはれ天つ雁。かさなる海山とほく飛びこえて
うす霧かゝるかたに そのかげいまぞしづむ。

(四)波間に噪げりあはれ小夜千鳥。ねざめの枕をよそにとひすてゝ、
潮風さむきはまに その友ゆきゝあそぶ。



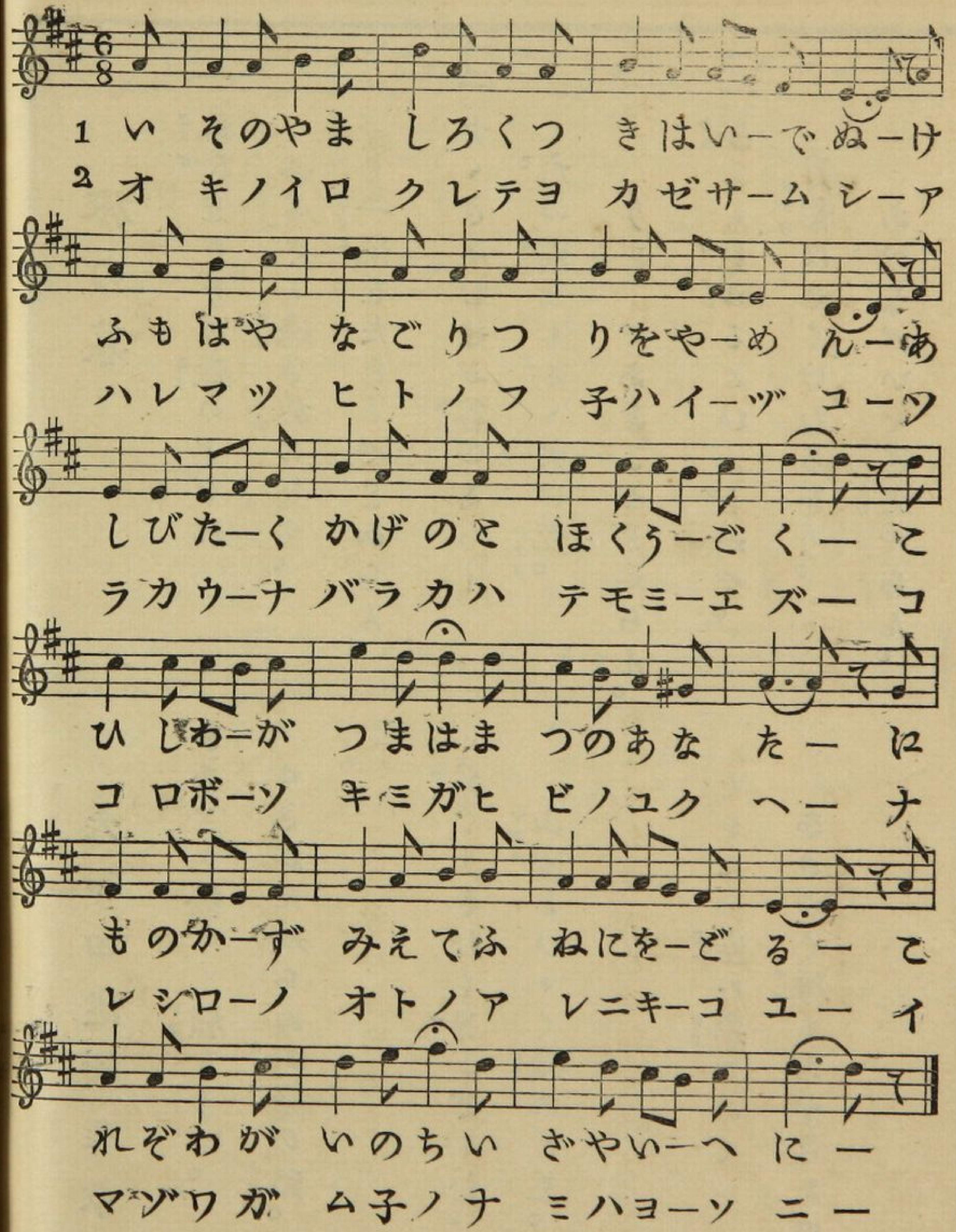
旅の暮

大和田建樹作歌

(一)落葉をさそふ森のしぐれ
なみだと散りて額をうつ。
ふるさと遠き旅のそら。
ゆきがた知らぬ野邊の路。
一夜をたれにやどからん。

(二)すゝきにむせぶ谷のあらし
夕ぐれさむく身にぞしむ。
木の間をもるゝ火の光。
山邊にひゞく鐘のこゑ。
うれしやあれにやどからん。

(三)夢にも見ゆるこひしわがや
そなたの空に霧こめて
月影ほそくけむるなり。
なきゆく雁もあときえぬ。
あけなばいそぎ文やらん。

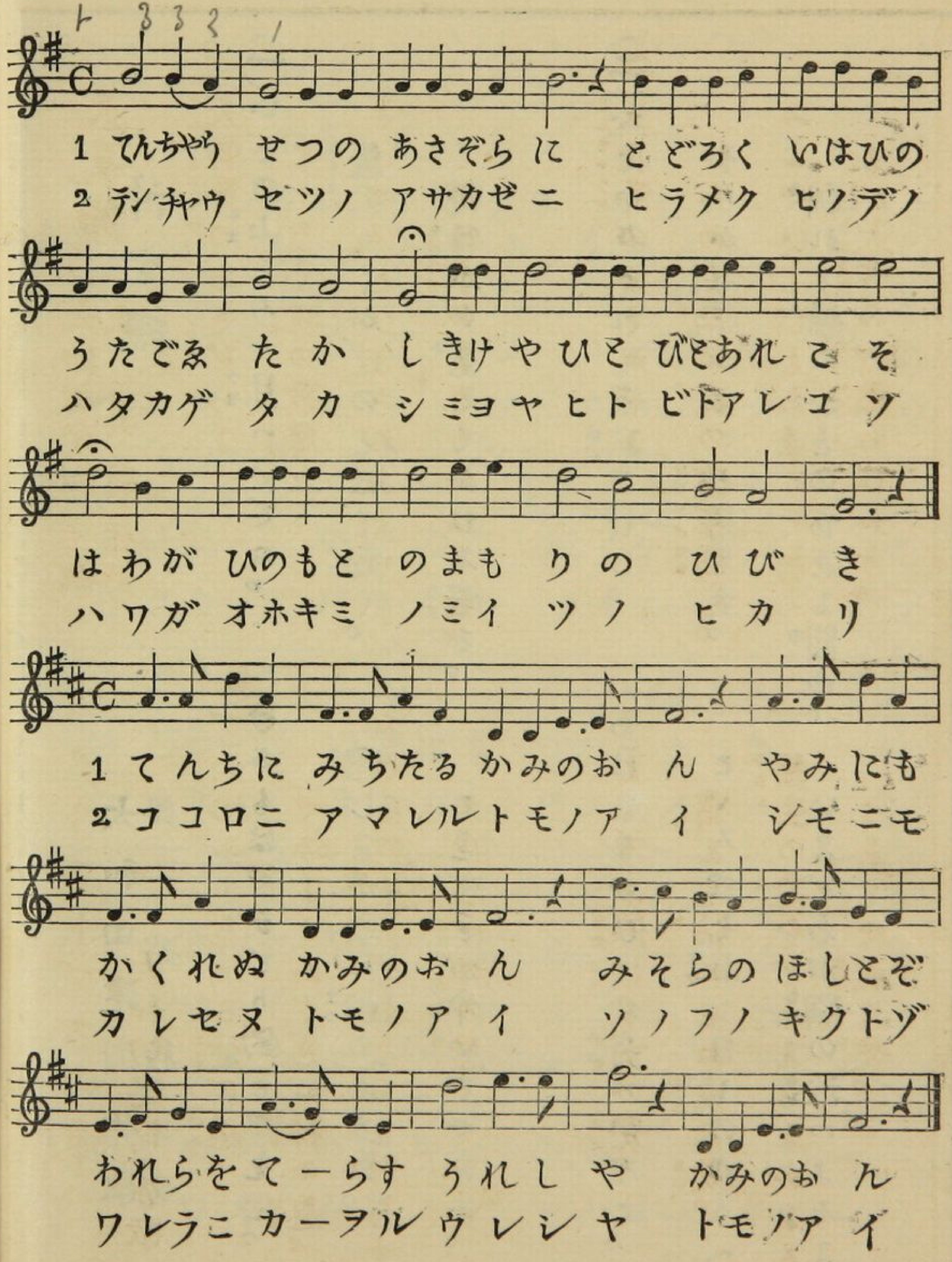


沖と磯

大和田建樹作歌
與好義作曲

(一)いその山しろく月はいでぬ。
けふもはやあさり釣をやめん。
蘆火たくかげのとほく動く。
戀しわが妻は松のあなた。
得物かず見えてふねに躍る。
これぞわが命いざや家へ。

(二)おきの色くれて夜風さむし。
あはれまつひとの舟はいづこ。
そらか海原かはても見えず。
こゝろぼそ君が日ゝのゆくへ。
馴れし艫のおとのあれに聞ゆ。
いまぞわが胸の波はよそに。



天長節

大和田建樹 作歌
上真行 作曲

(一)天長節のあさぞらに
とゞろく祝の歌聲たかし。
きけやひとびとあれこそは
わが日本のまもりのひゞき。

(二)天長節のあさかぜに
ひらめく日の出の旗影高し。
みよやひとびとあれこそは
わが大君の御威のひかり。

クリストマスの歌

大和田建樹 作歌

(一)天地にみちたる神の恩。
やみにもかくれぬ神の恩。
みそらの星とぞわれらを照らす。
うれしや神の恩。

(二)こゝろに餘れる友の愛。
霜にも枯れせぬ友の愛。
園生の菊とぞわれらにかをる。
うれしや友の愛。

版權所有

明治二十一年五月十日印刷
仝年五月十四日出版
仝年六月八日再版
仝年七月八日三版
仝年十月廿五日四版
仝二十二年一月十日五版

上製定價三十五錢
並製定價十二錢

編者　東京牛込區市ケ谷仲ノ町四拾番地　大和田建樹
編者　東京牛込區拂方町九番地　奧好義

發行者　東京日本橋區通鹽町八番地　宮川保全
印刷者　東京京橋區銀座貳丁目拾貳番地　宮本敦
發行所　東京日本橋區通鹽町八番地　中央堂

高等師範學校教諭　大和田建樹先生
高等師範學校助教諭　奥好義先生　同選

●明治唱歌　第一集　定價十二錢　郵税六錢

目錄　新年●春の歌●鳥の歌●春風●暮春●遊歩の庭●學の力●勸學の歌●共に學びし●二月の海路●ふるさとの山●紀元節●家にいゐん●日本男兒●皇國の守●母ふき吾屋●故郷の空●別れの歌●千里の友●草苅の歌●けふよる友●競漕の歌●別れの血しほ●若竹若松●朝雲雀●旅の暮●沖と磯●天長節●クリスマスの歌

●明治唱歌　第二集　定價十二錢　郵税六錢

目錄　柳櫻●砧の聲●時●樵の歌●春の朝●あすは千里●命の雨●自然の友●浦の夏●すゞめや子供●神は我に●上野の岡●舟あそび●慈愛の笑顔●箱庭●舟路の歌●岩間の清水●暮の星●あはれの少女●學課の後●夜半の曲●樂しみの時●隔てぬ影●暗夜の光●花の少女●首夏●汀の夕●別れの鳥●謡ひて謝せよ

●明治唱歌　第三集　明治廿二年五月發行

高等師範學校教諭　大和田建樹先生
高等師範學校助教諭　奥好義先生　同選

●明治唱歌　幼稚の曲　定價八錢　郵税四錢

これハ獨乙、英吉利の幼稚園唱歌集の内より奥先生の撰バれたる譜ゑ大和田先生の歌をつけられたる書なり

高等師範學校敎諭大和田建樹先生著

●いさり火　定價十五錢　郵稅六錢

これハ大和田先生が明治唱歌その外の雜誌等にもまだ載せられざる新趣向の近作をあつめて一冊とせられたる長篇の歌集なり

高等師範學校助敎諭奥好義先生編

●進行曲　定價三錢　郵稅二錢

右ハ諸學校に於て生徒の運動進行を爲す際「オルガン」「ピヤノ」「バイオリン」等を以て奏するものあるが未だ此種類の書出版なきに因り不便少からざりしに今此適切なる樂譜四種の撰述あり其益鮮少ならざるべし

式部次官從四位勳三等男爵高崎正風先生作歌
式部職樂師兼東京音樂學校敎員上眞行先生作曲

●忠愛唱歌 將棊之盤　定價三錢　郵稅二錢

洋琴伴奏（アツコンパニメント）附

本曲ハ小學兒童ニ忠君愛國ノ志ヲ養ハシムルノ一助トセンガ爲メ男爵高崎正風先生ノ作フレタル唱歌ニ上眞行君ノ曲譜ヲ附セラレタルモノニシテ昨年七月東京音樂學校ノ演奏會ニ同校生徒諸氏ノ始テ合唱ヲ試ミラレタル一大新曲ナリ今般弊堂作者ノ許可ヲ得テ出版仕候間小學校諸君ハ申スニ及バズ苟モ唱歌ニ志アルノ方々ハ速ニ一部ヲ購求シテ壯快ナル歌詞ト活發ナル曲節トヲ味ヒ玉ヘ

中央堂主人敬白